

爲リタルトキハ法人税法、營業税法及臨時利得税法ノ適用ニ關シテハ日本硫安株式會社及磷酸肥料配給株式會社ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ト看做シ日本肥料株式會社ハ之ヲ合併ニ因リテ設立シタル法人ト看做ス

日本肥料株式會社ガ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中日本硫安株式會社及磷酸肥料配給株式會社ノ拂込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登録税ヲ課セズ（以下略）

○日本發送電株式會社法（昭和十三年四月六日法律第七十七號）
（改正昭和十六年三月七日法律第五十三號）

第十七條ノ二

會社ガ第四條ノ規定ニ基キ日本發送電株式會社ニ出資ヲ爲シタルトキハ其ノ出資ニ對シ與ヘラレタル株式ノ價額ニ關シ出資ヲ爲シタル營業年度ニ於ケル法人税法ニ依ル所得、營業税法ニ依ル純益及臨時利得税法ニ依ル利益ノ計算ニ付命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第三十條ノ二 日本發送電株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十二年七月一日ヨリ昭和二十一年十二月三十一日ニ至ル間ニ於テ新設又ハ増設セラレタル發電設備ヲ以テ營ム事業ニ付設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス
日本發送電株式會社前項ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

前二項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ每營業年度ノ資本金額ニ對シ年百分十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條ノ二ノ改正規定ハ本法施行後終了スル營業年度分ヨリ之ヲ適用ス

○帝國石油株式會社法（昭和十六年三月十五日法律第七十三號）

第二十九條 帝國石油株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス

帝國石油株式會社ノ所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ但シ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通又ハ投資ヨリ生ズル帝國石油株式會社ノ甲種配當利子所得ニシテ第一項ニ規定スル法人税及營業税ノ免除期間内ニ生ジタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ分類所得税ヲ課セズ

第三十條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間帝國石油株式會社ニハ前條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業税ノ附加税ヲ除クノ外其ノ事業ニ對シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條 前條ノ規定ニ依リ帝國石油資源開發株式會社ガ帝國石油株式會社ト爲リタルトキハ法人税法、營業税法及臨時利得税法ノ適用ニ關シテハ帝國石油資源開發株式會社ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ト看做シ帝國石油株式會社ハ之ヲ合併ニ因リテ設立シタル法人ト看做ス
帝國石油株式會社ガ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中帝國石油資源開發株式會社ノ拂込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登録税ヲ課セズ

○東亞海運株式會社法（昭和十六年三月十四日法律第六十八號）

第四十三條 前條ノ規定ニ依リ暫定會社ガ東亞海運株式會社ト爲リタルトキハ法人税法及營業税法ノ適用ニ關シテハ暫定會社ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ト看做シ東亞海運株式會社ハ

之ヲ合併ニ因リテ設立シタル法人ト看做ス

東亞海運株式會社ガ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中暫定會社ノ拂込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登録税ヲ課セズ東亞海運株式會社ガ前條ノ規定ニ依リ暫定會社ヨリ不動産又ハ船舶ニ關スル權利ヲ承繼スル場合ニ於ケル其ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキ亦同ジ
前條ノ規定ニ依ル暫定會社ヨリ東亞海運株式會社ヘノ有價證券ノ移轉ニ付テハ有價證券移轉税ヲ課セズ

○蠶絲業統制法（昭和十六年三月十三日法律第六十七號）

第四十二條 日本蠶絲統制株式會社ハ繭及生絲ノ價格ノ安定ヲ圖ル爲命令ノ定ムル所ニ依リ繭絲價格安定資金ヲ設定スベシ
前項ノ規定ニ依リ繭絲價格安定資金ニ繰入レタル金額ハ法人税法ニ依ル所得、營業税法ニ依ル純益及臨時利得税法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

○木材統制法（昭和十六年三月十三日法律第六十六號）

第五十七條 日本木材株式會社ノ成立ニ因リ指定會社ハ之ニ吸收セララルモノトシ指定會社ノ權

利義務ハ日本木材株式會社ニ於テ之ヲ承繼ス
 第五十八條 前條ノ規定ニ依リ指定會社ガ日本木材株式會社ト爲リタルトキハ法人税法、營業税法及臨時利得税法ノ適用ニ關シテハ指定會社ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ト看做シ日本木材株式會社ハ之ヲ合併ニ因リテ設立シタル法人ト看做ス
 日本木材株式會社ガ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中指定會社ノ拂込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登録税ヲ課セズ

- 漁業法 (以下關係條文ハ所得稅關係ノ部ニ掲グ)
- 蠶絲業法
- 農業倉庫業法
- 住宅組合法
- 産業組合法
- 産業組合中央金庫法
- 競馬法

- 復興貯蓄債券法
- 工業組合法
- 海外移住組合法
- 家畜保險法
- 國際決済銀行ニ租稅等ヲ課セザルコトニ關スル法律
- 商業組合法
- 農村負債整理組合法
- 商工組合中央金庫法
- 重要肥料業統制法
- 漁船保險法
- 貿易組合法
- 臨時資金調整法
- 産業組合自治監査法
- 恩給金庫法

- 農業保險法
- 酪農業調整法
- 海運組合法
- 造船事業法
- 軍馬資源保護法
- 宗教團體法
- 自動車交通事業法
- 退職積立金及退職手当法
- 貸家組合法
- 農地開發營團法
- 住宅營團法
- 帝都高速度交通營團法
- 國家總動員法
- 庶民金庫法

○臨時利得稅關係

- 帝都高速度交通營團法（以下關係條文ハ所得稅關係ノ部ニ掲グ）
- 退職積立金及退職手当法
- 國家總動員法
- 國際決済銀行ニ租稅等ヲ課セザルコトニ關スル法律
- 日本銀行納付金法（以下關係條文ハ法人稅關係ノ部ニ掲グ）
- 日本肥料株式會社法
- 帝國石油株式會社法
- 蠶絲業統制法
- 木材統制法

○地租法關係

○租稅ニ關スル法規ヲ王公族所有ノ土地ニ適用スルノ件

(大正十五年十二月一日皇室令第十八條)

左ニ掲クル租稅ニ關スル法規ハ王公族所有ノ土地ニ之ヲ適用ス但シ王又ハ公ノ殿邸地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 地租
- 二 地租附加稅
- 三 段別割
- 四 朝鮮ニ於ケル租稅ニシテ前各號ニ該當スルモノ

○地租、地租附加稅及段別割ニ關スル法規ヲ皇族所有ノ土地ニ適用スルノ件 (大正二年七月三十一日皇室令第八號)

地租地租附加稅及段別割ニ關スル法規ハ皇族賜邸ヲ除クノ外皇族所有ノ土地ニ之ヲ適用ス但シ皇室財產令第二十一條ニ掲ケタル皇族所有ノ土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

○御料地拂下地ノ地租及登録稅免除ニ關スル法律 (昭和二年三月三十日法律第十八號)

第一條 北海道ニ於ケル御料地ニ屬スル未開地ヲ開拓シテ拂下ヲ受ケ又ハ之ヲ開拓シ若ハ素地ノ權使用スルノ目的ヲ以テ拂下ヲ受ケ民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ民有ト爲リタル年ノ翌年ヨリ起算シ十年ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ賦課セズ

第二條 前條ノ拂下地ニ付テノ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ニハ登録稅ヲ免除ス但シ所有權取得後六月内ニ登記ノ囑託ヲ請求セザルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ規定ハ本法施行前拂下ヲ受ケ民有ト爲リタル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ地價ノ設定ヲ爲サザルモノニ亦之ヲ適用ス

第二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ該當スル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ヲ受ケザルモノニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合各ニ於テハ六月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

○私立學校用地免租ニ關スル法律

(大正八年四月五日法律第三十八號)
(改正昭和十六年三月一日法律第十二號)

第一條 左ニ掲クルモノノ用ニ供スル土地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラズ

一 私立ノ幼稚園、中學校、高等學校、實業學校、專門學校、及大學
二 前號ニ掲ケサル私立學校ニシテ大藏大臣ニ於テ指定シタルモノ

第二條 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スベキ土地ハ校舍及寄宿舎、圖書館其ノ他保育又ハ教育上

必要ナル附屬建物ノ敷地並運動場、實習用地其ノ他直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スルモノニ限ル但シ收益ヲ生スル土地ニ付テハ大藏大臣ハ免租スベキ區域ヲ制限スルコトヲ得

第三條 北海道縣市區町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ免租セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ

他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○私立學校用地免租ニ關スル法律施行方 (大正八年十二月二十二日大藏省令第三十三號)

私立學校用地ニ對シ地租ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

一 所在郡、市區町村並土地ノ字、番號、地目、反別又ハ坪數、地價及其ノ用途

二 學校管理者ト納稅義務者ト異ルトキハ無料借地タルコトヲ證スル書面

三 學校ノ設立又ハ變更ノ年月日

前項ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ收益ヲ生スル土地アルトキハ稅務署長ハ大藏大臣ニ稟議スヘシ地租ノ免除ヲ受ケタル土地ニシテ之カ供用ヲ廢止シ又ハ無料借地ヲ有料借地ト爲シタルトキハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ直ニ所轄稅務署長ニ届出ツヘシ

附則

本令ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○地種變更免租年期ニ關スル法律

(大正七年五月二十五日法律第四十三號)
(改正昭和八年三月二十八日法律第十九號)

第一條 左ニ掲クル土地ニ付開墾ヲ爲シ又ハ開墾ニ等シキ勞費ヲ加ヘテ地目變更ヲ爲シタルトキハ地租ヲ課スルニ至リタル年ヨリ二十年以内ノ地種變更免租年期ヲ許可ス但シ事業成功ノ定アル土地ニ付テハ事業成功後開墾ヲ爲シ又ハ開墾ニ等シキ勞費ヲ加ヘテ地目變換ヲ爲シタル場合ニ限ル

- 一 明治八年開拓使布達第三號山林荒蕪地拂下規則第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 二 明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則第十條但書ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 三 明治二十二年法律第十八號ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 四 明治二十三年法律第七十九號屯田兵土地給與規則第三條及第八條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除シタル土地
 - 五 明治三十年法律第二十六號北海道國有未開地處分法第十八條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 六 明治三十二年法律第二十七號北海道舊土人保護法第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 七 明治四十一年法律第五十七號北海道國有未開地處分法第十九條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 八 昭和二年法律第十八號第一條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
地種變更免租年期明ニ至リ地味成熟ニ至ラサルモノニ付テハ更ニ年期ノ延長ヲ許可スルコトヲ得但シ通シテ三十五年ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第二條 地種變更免租年期又ハ其ノ延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ政府ニ申請スヘシ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前既ニ地租ヲ課スヘキ土地ニナリ未タ地價ノ設定ナキモノニモ之ヲ適用ス

附則 (昭和八年法律第十九號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○地變更免租年期ニ關スル法律施行規則 (大正七年五月二十五日大藏省令第二十三號)

第一條 地種變更免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ開墾成功シ又ハ地目變換ヲ爲シタル後六十日內ニ開墾又ハ地目變換ニ要シタル勞費ニ關スル明細書ヲ添ヘ地種變更免租年期ノ許可ヲ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

第二條 前條ニ依リ地種變更免租年期ノ許可ヲ申請セムトスル者ハ工事著手前三十日迄ニ工事著手ノ年月日、土地ノ所在、地番、現在地目、目的地目、地積及豫定ノ成功期日ヲ所轄稅務署長ニ届出ツヘシ

第三條 地種變更免租年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ所轄稅務署長其ノ旨申請スヘシ

附則

第四條 本令ハ地種變更免租年期ニ關スル法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○水道條例 (明治二十三年二月十三日法律第九號)

第五條 水道用地ハ國稅其他ノ公課ヲ免除ス

○森林法 (明治四十年四月二十三日法律第四十三號)

第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租法ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ

第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部分ニ限リ三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得
前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス
府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

○造林地地租免除申請方 (明治四十一年一月六日大藏省令第一號)

明治四十年法律第四十三號森林法第十二條ニ課リ造林地ノ地租免除ヲ得ムトスル者ハ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

○北海道舊土人保護法 (明治三十二年三月二日法律第二十七號) (改正昭和十二年三月三十一日法律第二十一號)

第一條 北海道舊土人ニシテ農業ニ從事スル者又ハ從事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一萬五千坪以内ヲ限リ無償下付スルコトヲ得

第二條ノ二 第一條ノ規定ニ依リ下付セラレタル土地ニハ其ノ下付ノ年ヨリ起算シ三十年ヲ經過シタル後ニ非ザレバ地租ヲ課セズ又地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ相續以外ノ原因ニ因リ所有權ノ移轉アリタル土地、登記シタル質權ノ目的タル土地又ハ登記シタル百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

○北海道國有未開地處分法 (明治四十一年四月十五日法律第五十七號)

第十九條 民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ事業成功期間滿了ノ翌年ヨリ起算シ十年ノ後ニ非サレハ之ヲ賦課セス但シ棄地ノ儘使用スル土地又ハ交換若ハ第四條ニ依リ付與シタル土地ニ對シテハ民有ト爲リタル翌年ヨリ起算ス

○砂防法 (明治三十年三月三十一日法律第二十九號)

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

○砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ

開スル件 (明治三十二年八月十六日勅令第三百七十四號)
(改正昭和六年四月一日勅令第五十一號)

第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者又ハ納稅義務者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

第三條 第一條ノ規定ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ土地ノ所在、地番、地目、地積、賃貸價格及地租ノ免除又ハ輕減ノ區分(輕減ニ付テハ其ノ程度共)ヲ記載シタル申請書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

第四條 第一條ノ規定ニ依リ地租ヲ輕減スベキ土地ニ付テハ其ノ賃貸價格ヨリ輕減地租額ニ相當

スル賃貸價格ヲ控除シタルモノヲ賃貸價格トシ前條ノ申請アリタル後ニ開始スル納期ヨリ其ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第五條 第一條ノ規定ニ依リ地租ヲ輕減シタル土地ニ付一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限ノ解除アリタルトキハ直ニ地租法第九條第三項ノ例ニ準ジ其ノ賃貸價格ヲ修正シ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

附 則 (昭和六年勅令第五十一號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條ノ改正規定ハ本令施行ノ際現ニ第一條ノ規定ニ依リ地租ヲ輕減セララルル土地ノ賃貸價格ニ付之ヲ準用ス

○航空法 (大正十年四月九日法律第五十四號)

第三十八條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ一時ノ使用ニ供スルモノ又ハ有料借地ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

○航空法第三十八條ノ規定ニ依リ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ對スル地租免除ノ施行方 (昭和二年六月七日大藏省令第十七號)

- 第一條 航空法第三十八條ノ規定ニ依リ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付地租ノ免除ヲ請ハシ
トスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄稅務署長ニ申請スベシ
- 一 所在市町村並土地ノ番號、地目、各筆毎ノ面積及地價
 - 二 飛行場經營者ト納稅義務者ト異ナルトキハ無料借地タルコトヲ證スル書面
 - 三 飛行場設置ノ目的及設置ノ期間
 - 四 飛行場ノ設置又ハ目的若ハ區域ノ變更ノ許可年月日
- 第二條 地租ノ免除ヲ受ケタル飛行場ノ用地ニシテ飛行場タルコト若ハ其ノ公共ノ用ニ供スルコトヲ廢止シ又ハ無料借地ヲ有料借地ト爲シタルトキハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ直ニ所轄稅務署長ニ届出ツベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○國立公園法 (昭和六年四月一日法律第三十六號)

- 第一條 國立公園ハ國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ區域ヲ定メ主務大臣之ヲ指定ス
- 第八條 主務大臣ハ國立公園ノ風致維持ノ爲國立公園計畫ニ基キ其ノ區域内ニ特別地域ヲ指定ス

ルコトヲ得

特別地域内ノ山林ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地租其ノ他ノ公課ヲ免除スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和六年勅令第二百四十一號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

○宗教團體法 (昭和十四年四月八日法律第七十七號) (改正昭和十五年三月二十九日法律第二十五號)

- 第二十二條 宗教團體ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅及法人稅ヲ課セズ
- 寺院ノ境内地及教會ノ構内地ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ地租ヲ免除ス但シ有料借地ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ宗教團體ノ所得ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

○宗教團體法第二十二條第二項ノ規定ニ依ル地租ノ免除ニ關スル件 (昭和十五年七月十日勅令第四百六十號)

- 第一條 寺院ノ境内地又ハ教會ノ構内地ニシテ左ニ掲グル區域ノ土地ニ付テハ宗教團體法第二十二條第二項ノ規定ニ依リ其ノ地租ヲ免除ス
- 一 本堂、庫裡、會堂其ノ他寺院又ハ教會ガ教職ノ宣布若ハ儀式ノ執行又ハ之ニ附隨スル行爲

一 爲スニ必要ナル建物又ハ工作物(附屬建物及附屬工作物ヲ含ム)ノ敷地ニ二項ノ六ノ旨

二 宗教上ノ儀式又ハ行事ヲ行フ爲ニ必要ナル土地

三 參道

四 庭園

五 寺院又ハ教會ノ風致ヲ維持スル爲ニ必要ナル土地

六 寺院又ハ教會ノ災害ヲ防止スル爲ニ必要ナル土地

前項第四號乃至第六號ノ土地ニ付テハ大藏大臣ハ免租スベキ區域ヲ制限スルコトヲ得

第二條 前條第一項ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ
稅務署長ニ提出スベシ

一 土地ノ所在、地番、地目、地積及賃賃價格並ニ其ノ用途

二 寺院又ハ教會ト納稅義務者ト異ナルトキハ無料借地タルコトヲ證スル書面

三 寺院若ハ教會ノ設立又ハ境内地若ハ構内地ノ區域變更ノ認可ノ年月日

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○沖繩縣土地整理法(明治三十二年三月十一日法律第五十九號)

第二十三條 地租條例及國稅徵收法ハ勅令ヲ以テ期日ヲ定メ漸次沖繩縣ニ施行ス但シ社寺地、拜

所ハ地租ヲ免除ス

○皇親御寺廟稅法令

○東亞新報社友會通告(昭和十六年三月十四日)

○大日本建設株式會社通告(昭和十四年四月二十二日)

○官廳事務令

○有價証券移轉稅關係

○大日本航空株式會社法（昭和十四年四月十二日法律第八十四號）

第四十九條第三項 前條ノ規定ニ依ル許可會社ヨリ大日本航空株式會社ヘノ有價証券ノ移轉ニ付テハ有價証券移轉稅ヲ課セズ

○東亞海運株式會社法（昭和十六年三月十四日法律第六十八號）

第四十三條第三項 前條ノ規定ニ依ル暫定會社ヨリ東亞海運株式會社ヘノ有價証券ノ移轉ニ付テハ有價証券移轉稅ヲ課セズ

○恩給金庫法（關係條文ハ所得稅關係ノ部ニ掲グ）

○庶民金庫法

○農地開發營團法

○住宅營團法

○帝都高速度交通營團法

○營業稅關係

○保險業法（昭和十五年三月二十九日法律第五十九號改正）

第八十一條 相互會社ニハ營業稅ヲ課セズ

○工業組合法（昭和十五年三月二十九日法律第五十九號改正）

第三十三條ノ九 工業小組合ニハ營業稅ヲ課セズ

○取引所法（昭和十五年三月二十九日法律第五十九號改正）

第三十條ノ二 會員組織ノ取引所ニハ營業稅ヲ課セズ

○恩給金庫法（以下關係條文ハ所得稅關係ノ部ニ掲グ）

○家畜保險法

○海運組合法

○漁業法

○軍馬資源保護法

○競馬法

○產業組合法

○產業組合中央金庫法

○重要肥料業統制法 平三三二六日法律第五十五號

○商工組合中央金庫法

○庶民金庫法

○造船事業法

○退職積立金及退職手當法

○農業倉庫業法

○農業保險法

○酪農業調整法

○蠶絲業法

○住宅組合法

○工業組合法

○海外移住組合法

○國際決済銀行ニ租税等ヲ課セザルコトニ關スル法律

○商業組合法

○農村負債整理組合法

○漁船保險法

○貿易組合法

○職員健康保險法

○健康保險法

○國民保險法

○軍事扶助法

○船員保險法

○自動車交通事業法

○貸家組合法

現行法律令・警察法

○農地開發營團法

○住宅營團法

○帝都高速度交通營團法

○國家總動員法

○日本銀行納付金法 (以下關係條文ハ法人稅關係ノ部ニ掲グ)

○日本肥料株式會社法

○蠶絲業統制法

○木材統制法

○アルロール專賣法

○輕金屬製造事業法

○工作機械製造事業法

○航空機製造事業法

○自動車製造事業法

○人造石油製造事業法

○製鐵事業法

○有機合成事業法

○重要機械製造事業法

○硫酸アンモニア増産及配給統制法

○北支開發株式會社法

○國際電氣通信株式會社法

○大日本航空株式會社法

○帝國鑛業開發株式會社法

○帝國燃料興業株式會社法

○日本產金振興株式會社法

○日本發送電株式會社法

○帝國石油株式會社法

○東亞海運株式會社法

○登録税關係

○國稅徵收法（明治三十年三月二十九日法律第二十一號）

第二十三條ノ四 差押ノ解除ニ關シテハ登録税ヲ納ムルコトヲ要セス

○宗教團體法（昭和十四年四月八日法律第七十七號）

第三十七條第三項 第三十五條第一項ノ佛堂ニシテ寺院ニ屬セズ又ハ寺院若ハ教會ト爲ラザルモノノ不動産ニ關スル登記ニ付テハ前二項ノ改正規定ニ拘ラズ本法施行後二年ヲ限り仍從前ノ例ニ依ル

○復興貯蓄債券法（大正十三年七月二十二日法律第十五號）

第六條 復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル社債ノ登記ニハ登録税ヲ課セス

○臨時資金調整法（昭和十二年九月十日法律第八十六號）

第十五條 復興貯蓄債券法第六條ノ規定ハ貯蓄債券及報國債券ニ之ヲ準用ス

○破産法（大正十一年四月二十五日法律第七十一號）

第二十二條 登記所カ前三條ノ規定ニ依リテ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ付テハ登録税ヲ課セス

第二十三條 登記ノ原因タル行爲カ否認セラレタルトキハ破産管財人ハ否認ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス登記カ否認セラレタルトキ亦同シ

第二百一十一條及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 前四條ノ規定ハ破産財團ニ屬スル權利ニシテ登録シタルモノニ之ヲ準用ス

○和議法（大正十一年四月二十五日法律第七十二號）

第八條 破産法第二百二條及第二百二十四條ノ規定ハ和議開始、和議開始決定取消又ハ和議廢止ノ決定アリタル場合及和議認否又ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

○永代借地權ニ關スル法律（明治三十四年九月二十一日法律第三十九號）

第三條 水代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ニ付テハ登録税ヲ課セス

○北海道舊土人保護法 (明治三十二年三月二日法律第二十七號)

第二條第二項 前項ノ期間内ハ下付ヲ受ケタル者又ハ其ノ相續人ニ對シ下付ヲ受ケタル土地ノ下
付若ハ相續ニ因ル所有權ノ取得又ハ遺産ノ分割ニ關スル登録税ヲ課セス

○北海道國有未開地處分法 (明治四十一年四月十五日法律第五十號)

第二十條 土地ノ賣拂又ハ付與ヲ受ケタル者六月以内ニ其ノ原因ニ依リ登記ヲ請フトキ又ハ土地
賣帳ニ登録スルトキハ其ノ登録税ヲ免除ス

前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ其ノ申請書ニ本法ニ依リ處分セラレタル土地タルコトヲ記載スル
コトヲ要ス

○旭川市舊土人保護地處分法 (昭和九年三月二十四日法律第九號)

第一條 北海道廳長官ハ舊土人保護ノ目的ヲ以テ旭川市ニ貸付シタル同市所在ノ土地ヲ內務大臣
及大藏大臣ノ認可ヲ經テ特別ノ緣故アル舊土人ニ單獨有財産又ハ共有財産トシテ無償下付スル

コトヲ得

第三條 第一條ノ規定ニ依ル土地所有權ノ取得ニ關シテハ登録税ヲ課セス又地方税ヲ課スルコト
ヲ得ス

○耕地整理法 (明治四十二年四月十三日法律第三十號)

第十條 耕地整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記ヲ爲ストキハ登録税ヲ免除ス

○御料地拂下地ノ地租及登録税免除ニ關スル法律 (條文ハ地租法關係ニ掲グ)

○船舶積量測度法中改正法律 (昭和六年三月二十八日法律第六號)

第五條 船舶ガ本法施行ノ結果登記登録ノ變更又ハ抹消ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登録
ヲ爲ス場合ニ於テハ登録税ヲ課セス本法施行ノ際登記登録ヲ要セザル船舶ガ本法施行ノ結果新
ニ登記登録ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登録ヲ爲ス場合亦同シ

○北海道土功組合法 (明治三十五年三月八日法律第十二號)

第九條 組合事業ヲ施行シタルカ爲土地ノ登記又ハ登録ヲ爲ストキハ登録税ヲ免除ス

○蠶絲業組合法（昭和六年三月三十日法律第二十四號）

第二十五條 養蠶實行組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セズ

○産業組合法（明治三十三年三月七日法律第三十四號）

第十條ノ四 蠶絲業組合法第二十五條ノ規定ハ農事實行組合ニ之ヲ準用ス

○産業組合自治監査法（昭和十三年三月十八日法律第十五號）

第六條 産業組合監査聯合會ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セズ

○産業組合中央金庫法（大正十二年四月六日法律第四十二號）

第八條 登録税法及印紙税法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス
第十七條 登録税法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

○商工組合中央金庫法（昭和十一年五月二十七日法律第十四號）

第三十六條 登録税法中社債ニ關スル規定ハ商工債券ニ之ヲ準用ス

○農村負債整理組合法（昭和八年三月二十九日法律第二十一號）

第十九條 負債整理組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セズ

○牧野法（昭和六年四月一日法律第三十七號）

第二十三條 牧野組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セズ

○保險業法（昭和十四年三月二十九日法律第四十一號）

第八十條 相互會社ガ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセザル社團法人ト同一ノ登録税ヲ納ムルコトヲ要ス

○家畜保險法（昭和四年三月二十八日法律第十九號）

第九條 組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セズ

○漁船保險法（昭和十二年三月三十日法律第二十一號）

第二十八條 家畜保險法第八條乃至第十條ノ規定ハ漁船保險組合ニ之ヲ準用ス

○農業保險法 (昭和十三年四月二日法律第六十八號)

第八條 農業保險組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ
第七十八條 第七條乃至第十二條ノ規定ハ農業保險組合聯合會ニ之ヲ準用ス

○軍馬資源保護法 (昭和十四年四月七日法律第七十六號)

第十四條第二項 軍用保護馬銀鍊中央會ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

○競馬法 (大正十二年四月十日法律第四十七號)

第十六條第二項 日本競馬會ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ
第四十七條 従前ノ第一條ノ法人及社團法人帝國競馬協會解散シタル場合ニ於テハ其ノ權利義務

ハ日本競馬會之ヲ承繼ス

第四十九條 日本競馬會第四十七條ノ規定ニ依リ承繼シタル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ付登記
ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録稅ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登録稅法ノ規定ニ依

リ算出シタル稅額ガ本法ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル

○日本製鐵株式會社法 (昭和八年四月六日法律第四十七號)

第十八條 日本製鐵株式會社其ノ設立ノ日ヨリ五年以内ニ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テ
ハ其ノ登録稅ノ額ハ左ノ額トス但シ登録稅法ノ規定ニ依リ算出シタル登録稅ノ額ガ左ノ額ヨリ
少キトキハ其ノ額ニ依ル

一 設立、資本ノ増加、合併又ハ第二回以後ノ株金拂込

拂込株金額、増資拂込株金額又ハ毎回拂込株金額ノ千分ノ一

二 設立、資本ノ増加又ハ製鐵事業ノ讓受ノ場合ニ於ケル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得

不動産又ハ船舶ノ價格ノ千分ノ三

北海道府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ日本製鐵株式會社ニ對シ前項ニ規定スル不動産
又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

○臺灣拓殖株式會社法 (昭和十一年六月三日法律第四十三號)

第四條 政府ハ臺灣總督ノ管理ニ屬スル金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ臺灣拓殖株式會社ガ政府ノ出資スル不動産ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキハ其ノ登録税ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三トス

○日本通運株式會社法（昭和十二年四月五日法律第四十六號）

第十九條

日本通運株式會社左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ左ノ額トス但シ登録税法ニ依リ算出シタル税額ガ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ税額ニ依ル

一 設立

金錢出資ニ依ル拂込株金額ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル拂込株金額ノ千分ノ一トノ合計額

二 設立ノ際ニ於ケル出資ノ目的タル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得

不動産又ハ船舶ノ價格ノ千分ノ三

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ日本通運株式會社ニ對シ前項ニ規定スル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ

○陸上交通事業調整法（昭和十三年四月二日法律第七十一號）

第八條 第二條ノ規定ニ依ル調整ノ實施ニ因リ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ左ノ額トス但シ登録税法ニ依リ算出シタル登録税ガ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

一 會社ノ設立又ハ資本増加

金錢出資ニ依ル拂込株金額又ハ増資拂込株金額ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル拂込金額又ハ増資拂込金額ノ千分ノ一トノ合計額

二 會社ノ設立若ハ資本増加又ハ陸上交通事業ノ讓受ノ場合ニ於ケル不動産ニ關スル權利ノ取得

不動産ノ價格ノ千分ノ三

北海道、府縣及市町村其ノ他ノ準メベキモノハ前項ニ規定スル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ

○日本發送電株式會社法（昭和十三年四月六日法律第七十七號）

第三十一條 日本發送電株式會社左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ左ノ額トス但シ登録税法ニ依リ算出シタル登録税ノ額ガ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

一 設立及第四條又ハ第八條ニ規定スル出資ニ因ル資本ノ増加
 二 第四條、第八條又ハ第十四條ニ規定スル出資又ハ買収ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得
 不動産ノ價格ノ千分ノ三

北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ日本發送電株式會社ニ對シ前項ニ規定スル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方稅ヲ課スコトヲ得ズ

○電力管理ニ伴フ社債處理ニ關スル法律（昭和十三年四月六日法律第七十八號）

第五條 政府ハ前條第一項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ日本發送電株式會社ヲシテ第二條第一項ノ工場材圖ニ屬スル幾存電力設備及其ノ附屬設備ヲ買收セシムルコトヲ得

第一條及日本發送電株式會社法第三十一條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

○北支那開發株式會社法（昭和十三年四月三十日法律第八十一號）

第三條 北支那開發株式會社ガ設立、資本ノ増加、合併又ハ第二回以後ノ株金拂込ノ登記

ニ於テハ其ノ登録稅ノ額ハ株金拂込株金額、増資拂込株金額又ハ毎回拂込株金額ノ千分ノ一トス

○國際電氣通信株式會社法（大正十四年三月三十日法律第三十號）

第十四條ノ八 國際電氣通信株式會社左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録稅ノ額ハ左ノ額トス

- 一 第六條第三項ニ規定スル出資ニ因ル資本ノ増加
- 二 第六條第三項ニ規定スル出資ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得

○米穀配給統制法（昭和十四年四月十二日法律第八十一號）

第五十條 日本米穀株式會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ農府ノ認可ヲ受テ米穀ヲ賣買取引スル取引所又ハ正米市場開設者ヲ本法公布ノ際現ニ所有スル土地、建物其ノ他ノ設備ヲ其ノ申込ニ應ジ買取ルモノトス

第五十七條 日本米穀株式會社前條第一項ニ規定スル買取ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録稅ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登録稅法ニ依リ算出シタル登録稅ノ額ガ本法ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ日本米穀株式會社ニ對シ前條第一項ニ規定スル買得ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

○大日本航空株式會社法（昭和十四年四月十二日法律第八十四號）

第三十二條 大日本航空株式會社ガ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録稅ノ額ハ左ノ額トス

- 一 第四條第二項ノ規定ニ依ル政府ノ出資及第五條第二項ノ規定ニ依ル第二回以後ノ株金拂込拂込株金額又ハ毎回拂込株金額ノ千分ノ一
- 二 第四條第二項ノ規定ニ依ル政府ノ出資又ハ第五條第二項ノ規定ニ依ル第二回以後ノ株金拂込ニ基ク不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得
不動産又ハ船舶ノ價格ノ千分ノ三

第四十九條 大日本航空株式會社ガ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中許可會社ノ拂込

株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登録稅ヲ課セズ大日本航空株式會社ガ前條ノ規定ニ依リ許可會社ヨリ不動産又ハ船舶ニ關スル權利ヲ承繼スル場合ニ於ケル其ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキ亦同シ

○日本肥料株式會社法（昭和十五年四月八日法律第一百號）

第四十九條第三項 日本肥料株式會社ガ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中日本硫酸株式會社及磷酸肥料配給株式會社ノ拂込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

○帝國石油株式會社法（昭和十六年三月十五日法律第七十三號）

第四十六條第二項 帝國石油株式會社ガ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中帝國石油資源開發株式會社ノ拂込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

○木材統制法（昭和十六年三月十三日法律第六十六號）

第五十八條第二項 日本木材株式會社ガ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中指定會社ノ拂込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

第三條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニ付テハ所得稅法ニ依ル分類所得稅ヲ課セズ

- 一 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スル公債、社債、朝鮮金融債券又ハ預金ノ利子及合同運用信託ノ利益
- 二 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニシテ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ配當稅ヲ課シ又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ普通配當稅ヲ課スルモノ
- 三 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スル一時恩給及退職給與並ニ此等ノ性質ヲ有スル給與

第四條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル不動産所得中ニ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ於ケル資產ヨリ生ズルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ同法第二十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ百分ノ八ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

前項ニ規定スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル甲種ノ事業所得中ニ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル營業ヨリ生ズルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ同法第二十一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

- 一 所得稅法第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ル控除前ノ事業所得ノ金額ガ千圓ヲ超ユルトキ

百分ノ七

百分ノ四・五

二 前號ノ金額ガ千圓以下ナルトキ

所得稅法第二十一條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第一項ニ規定スル個人ノ法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配中ニ朝鮮又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ資本利子稅ヲ課スルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ所得稅法第二十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ百分ノ六ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

第五條 信託會社ガ其ノ引受ケタル合同運用信託ノ信託財產ニ付朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅及資本利子稅ハ各之ヲ所得稅法ニ依リ納付シタル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ト看做シ同法第二十三條ノ規定ヲ適用ス

第六條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第二十八條ニ規定スル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル綜合所得稅ヲ課セズ

第七條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、朝鮮金融債券若ハ預金ノ利子又ハ命令ヲ以テ

定ムル合同運用信託ノ利益ニシテ各當該地ノ法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得税ヲ課スルモ
 第三種ノ所得稅法第三十條第一項第三號ノ規定ニ拘ラズ前年中ノ收入金額（無記名ノ公債及社債ノ
 利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額ニ依リ個人ノ總所得ヲ
 算出ス

第八條 日本ノ國籍ヲ有セザル者ノ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産、營業
 又ハ職業ヨリ生ズル所得ニ付テハ所得稅法第十一條第一項第七號及第二十九條第一號ノ規定ヲ
 適用セズ

第九條 配當利子特別稅法第十三條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州若ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ利
 益配當稅若ハ公債及社債利子稅ヲ課セラレ又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ超過配當稅ヲ課セ
 ラルル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付所得稅ヲ課スル場合ニ付之ヲ準用ス

外貨債特別稅法第十八條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ外貨債特別
 稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得稅ヲ課スル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人稅
 法第三條第一號ノ所得ニ付テハ同法第十六條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ百分ノ三ノ稅率ニ依
 リ法人稅ヲ賦課ス

朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人稅法第三條第二號ノ
 所得及同條第三號ノ資本ニ付テハ法人稅法ニ依ル法人稅ヲ課セズ南洋群島ニ本店又ハ主タル事
 務所ヲ有スル法人ノ法人稅法第三條第二號ノ所得ニ付亦同ジ

第十一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ朝
 鮮、臺灣、關東州、樺太、南洋群島又ハ法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人
 ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ法人稅法
 施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタ
 ル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ所得及資本並ニ清算所得ニ付法人
 稅ヲ納ムル義務アルモノトス

前項ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人中朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本
 店又ハ主タル事務所ヲ有シタル法人ノ所得及資本ニ付テハ法人稅法第十六條ノ規定ニ拘ラズ各
 當該地ニ於ケル法令ニ依リ算出シタル第一種ノ所得ニ對スル所得稅額及法人資本稅額ノ合計額
 （南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シタル法人ニ在リテハ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額
 ノミニ依ル）ニ相當スル金額ヲ以テ法人稅ノ稅額トス

第十二條 法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於

ケル法令ニ依リ納付シタル又ハ納付スベキ各當該地ノ第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ之ヲ法人稅ト看做シ法人稅法第四條第二項ノ規定ヲ適用ス

第十三條 法人ノ所有スル國債ノ利子ガ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ公債及社債利子稅ヲ課セラルルモノナルトキハ當該公債及社債利子稅ヲ配當利子特別稅ト看做シ法人稅法第十三條ノ規定ヲ適用ス

第十四條 法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ各事業年度ノ所得中ニ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ法人稅法第十六條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ百分ノ十五ノ稅率ニ依リ法人稅ヲ賦課ス

第十五條 法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅及資本利子稅、臺灣ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル配當稅並ニ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル普通配當稅ハ之ヲ所得稅法第十條ニ規定スル配當利子所得ニ對スル分類所得稅ト看做シ法人稅法第十六條第二項乃至第四項ノ規定ヲ適用ス

第十六條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅及法人稅法ニ依ル法人稅ヲ免除ス

第十七條 前條ノ規定ニ該當スル事業ガ製鐵事業法ニ依リ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅ノ免除ヲ受ケルコトヲ得ベキ製鐵事業ニ相當スルモノナルトキハ之ヲ所得稅法施行地ニ在ル製鐵事業又ハ法人稅法施行地ニ在ル製鐵事業ト看做シ製鐵事業法第七條第三項（第十條、第十一條第二項及第四十三條ノ二第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ金額又ハ製鐵事業法第四十二條ノ規定ニ依リ適用セラルル製鐵業獎勵法第二條第三項ノ金額ヲ計算ス

前項ノ規定ハ輕金屬製造事業法、航空機製造事業法、人造石油製造事業法其ノ他ノ法律ニ依リ所得ニ對スル法人稅ヲ免除スル事業ノ一部ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在ル場合ニ於テ各其ノ法律ノ規定スル所ニ依リ當該事業ヨリ生ズル所得中一定金額ヲ超過スル部分ニ對シ法人稅ヲ免除セザルトキニ於ケル其ノ超過額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

附 則

第十八條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 大正九年法律第十二號ハ之ヲ廢止ス

第二十條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ對スル分類所得稅並ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス

法人ノ各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十二條 法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得及本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得税並ニ本法施行前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ第二種又ハ第三種ノ所得ニ對スル所得税ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十三條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得税法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行預金及所得税法第二十一條第二項ニ規定スル預金ノ利子並ニ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニ付テハ第六條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内利子又ハ利益ノ支拂ヲ受クル者ノ申請ニ依リ利子又ハ利益支拂ノ際其ノ利子金額又ハ利益金額ヲ課税標準トシ百分ノ十五ノ税率ニ依リ綜合所得税ヲ賦課スルコトヲ得

所得税法第六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付テハ準用ス

第二十四條 所得税法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、朝鮮金融債券若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニ付テ各當該地ノ法令ニ依リ利子又ハ利益ノ支拂ノ際第三種ノ所得トシテ所得税ヲ課シタルモノニ付テハ當分ノ内所得税法ニ依ル綜合所得税ヲ課セズ

○所得税法人税内外地關涉法施行規則 (昭和十五年三月三十一日勅令第五百五十八號)

第一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル個人又ハ所得税法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セズシテ此等ノ地域ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得税法第十條ニ規定スル不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得並ニ同法第二十八條ニ規定スル所得ニ付テハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外所得税法人税内外地關涉法第一條又ハ第六條ノ規定ニ依リ分類所得税及綜合所得税ヲ課セズ

- 一 所得税法施行地ニ住所ヲ有スル者所得金額決定後朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ移轉シタルトキ
- 二 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル者各當該地ニ於ケル法令ニ依ル所得金額決定前所得税法施行地ニ住所ヲ移轉シタルトキ
- 三 所得税法施行地、朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者各當該地ニ於ケル法令ニ依リ所得金額決定後住所ニ付テハ二種ニ準ズベキ事由ノ生シタルトキ

朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル個人又ハ所得稅法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セズシテ此等ノ地域ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル甲種ノ勤勞所得ニ付テハ所得稅法人稅内外地關涉法第一條ノ規定ニ依リ分類所得稅ヲ課セズ

第二條 所得稅法人稅内外地關涉法第四條第二項ノ規定ニ依リ分類所得稅ヲ賦課スル場合ニ於テ所得稅法施行地ヨリ生ズル事業所得アルトキハ所得稅法第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ル控除ハ先ヅ所得稅法施行地ヨリ生ズル事業所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ所得稅法人稅内外地關涉法第四條第二項ニ規定スル所得ニ及ブ

第三條 所得稅法人稅内外地關涉法第七條ノ規定ニ依リ前年中ノ收入金額ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額ニ依リ個人ノ總所得ヲ計算スベキ合同運用信託ノ利益ハ朝鮮所得稅令第五條ニ規定スル合同運用信託ノ利益トス

第四條 法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ對シ臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得稅ハ之ヲ所得稅法人稅内外地關涉法第十二條ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス

第五條 所得稅法人稅内外地關涉法第十六條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ法人稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ其ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ノ事業場所在地ヲ管轄スル各當該地ノ稅務官署ニ於テ其

ノ他ノ法令ニ依リ所得稅又ハ法人稅ヲ免除スベキ製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ相當スト認メタル證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

所得稅法施行規則第四十三條及法人稅法施行規則第八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル申請ニ付之ヲ準用ス

第六條 所得稅法人稅内外地關涉法第十六條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ法人稅ヲ免除スベキ期間ハ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ所得稅又ハ法人稅ヲ免除スベキ當該製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ付定メラレタル所得稅又ハ法人稅ノ免除期間ニ依ル

所得稅法施行規則第三條及法人稅法施行規則第七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ所得稅又ハ法人稅ヲ免除スベキ期間ニ付之ヲ準用ス

附 則

第七條 本令ハ所得稅法人稅内外地關涉法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ對スル分類所得稅並ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

法人ノ各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事

業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本令ヲ適用ス

第九條 所得稅法人税内外地關涉法第二十二條第一項ノ規定ニ依リ支拂ノ際綜合所得稅ヲ賦課スルコトヲ得ベキ合同運用信託ノ利益ハ所得稅法施行規則第三十三條ニ規定スルモノニ限ル

第十條 所得稅法施行規則第百十四條及第百十五條ノ規定ハ所得稅法人税内外地關涉法第二十二條ノ規定ニ依ル綜合所得稅ノ賦課徵收ニ付之ヲ準用ス

○樺太ニ於ケル租稅ニ關スル件 (明治四十年三月二十七日法律第二十一號)

改正 大正九年法律第十三號 大正十年法律第七號

大正十一年法律第二十一號 大正十二年法律第二十一號

昭和二年法律第十號 昭和十年法律第二十號

昭和十二年法律第三十一號 昭和十二年法律第六十六號

昭和十三年法律第五十一號 昭和十四年法律第四十八號

昭和十五年法律第二十六號

第一條 樺太ニ於テハ左ニ掲クル租稅ヲ賦課徵收ス

一 市街宅地稅

二 所得稅

三 營業收益稅

四 酒邊稅

五 漁業稅

六 臨時利得稅

七 相續稅

八 資本利子稅

九 外貨債特別稅

十 法人資本稅

十一 北支事件特別稅

十二 利益配當稅

十三 公債及社債利子稅

十四 通行稅

- 十五 入場税
 - 十六 特別入場税
 - 十七 物品税
 - 十八 建築税
 - 十九 遊興飲食税
 - 二十 特別法人税
- 前項租税ノ種類及課率ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二條 本法ニ規定スルモノノ外租税ノ賦課徵收其ノ他必要ナル事項ニ關スル規程ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附 則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○所得税法施行規則等ノ規定ニ依ル検査章書式ノ件

(昭和十五年四月一日大藏省令第十號)

所得税法施行規則第二百五條、法人税法施行規則第二十一條、特別法人税法施行規則第十四條、外貨換算別税法施行規則第三條、建築税法施行規則第十一條、有價證券移轉税法施行規則第九條、通行税法施行規則第十四條及營業税法施行規則第二十九條ノ規定ニ依ル検査章ノ書式左ノ通定ム

書式(用紙厚質白紙ニ付五段)

第一號

<p>検査章</p> <p>表</p> <p>検査章</p>	<p>何税務署</p> <p>官 氏 名</p>
--------------------------------	--------------------------

税 務 署 印

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年大藏省令第八號ハ之ヲ廢止ス

六三三

昭和十五年法律第五十一號、同年法律第五十三號及同年法律第五十號ノ附則ノ規定ニ依リ舊法ニ
 依ル場合ニ於ケル營業收税法施行規則第二十四條、法人資本税法施行規則第七條並ニ支那事變
 特別税法施行規則第六十八條第一項及第二項ノ規定ニ依ル検査章ノ書式ニ付テハ仍從前ノ例ニ依
 ル

○國庫出納金端數計算法 (大正五年二月二十九日法律第二號)

第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全
 額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

第二條 國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
 第三條 分額シテ收入シ又ハ支拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス

第四條 分額シテ收入又ハ仕拂フ額ニ於テ分額金額一錢未滿ナルトキ又ハ之ニ一錢未滿ノ
 端數ヲ生シタルトキハ其ノ分額金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租
 分納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 賣賣印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス

法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ
 之ヲ準用ス

附則

第七條 本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治四十年法律三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令
 ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

○國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ
 端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定ノ件 (大正五年三月三十一日大藏省令第二號)

大正七年省令第十一號(一) 大正十五年省令第二十六號(2)

昭和十年省令第六號(3) 昭和十二年省令第九號(4)

昭和十四年省令第十號(5) 昭和十五年四月省令第二十八號(6)

本法ハ 國庫出納金端數計算法 國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ
 課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定ノ件

國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課税標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅ヲ指定ス
ル左ノ如シ

- 一 分類所得稅(甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ除ク)(6)
- 二 綜合所得稅(所得稅法第百六條第一項ニ規定スル綜合所得稅ヲ除ク)(6)
- 三 法人稅(6)
- 四 特別法人稅(6)
- 五 外貨債特別稅(4)
- 六 相續稅(6)
- 七 遺贈稅(6)
- 八 取引所特別稅(6)
- 九 取引稅
- 十 臨時利得稅(3)
- 十一 營業稅(6)
- 十二 第一種所得稅(6)
- 十三 第三種所得稅(6)

十四 營業收益稅(2)

十五 乙種資本利子稅(2)

十六 法人資本稅(4)

十七 礦產稅

十八 特別礦產稅(4)

十九 取引所營業稅

附則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則(3)

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則(4)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則(5)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則(6)

共 同 法 令
國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課税標準額計算上圓位未滿ノ
端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定ノ件

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布の日ヨリ之ヲ施行ス

廢止法令

支那事變特別税法及臨時租稅增徴法

○支那事變特別税法及臨時租稅增徴法ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月二十九日法律第五十號) 附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得稅、營業收益稅、法人資本稅及臨時利得稅、法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得稅、昭和十五年三月三十一日以前ニ開始シタル相續ニ對スル相續稅、昭和十五年三月三十一日以前ニ産出シタル礦產物ニ對スル礦產稅及特別礦產稅、昭和十五年三月三十一日以前ニ爲シタル賣買取引ニ基ク賣買手續料收入金額ニ對スル取引所營業稅、昭和十五年三月三十一日以前ニ竣工シタル家屋ノ建築費並ニ昭和十五年三月三十一日以前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ第二種又ハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅、資本利子稅、酒類ニ對スル造石稅及出港稅、麥酒稅、酒精及酒精含有飲料ニ對スル造石稅、清涼飲料稅、砂糖消費稅、取引

税、印紙税、利益配當税、公債及社債利子税、通行税、入場税、特別入場税、物品税、遊興飲食
 税及個人ノ臨時利得税ニ關シテハ仍舊法ニ依ルルニ依リ、資本利子税、贈與税、遺贈税、臨時租税増徴法第十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ拘ラズ昭和十五年一月一日以後ニ隱居ニ因リ開始シ
 タル家督相續又ハ同日以後ニ爲シタル相續税法第二十三條第一項ニ規定スル贈與ニ付テハ之ヲ適
 用セズ以前ニ遺出シタル財産ニ對シテハ前項ノ規定ニ依リ、昭和十五年三月三十一日以前ニ
 昭和十五年一月一日以後昭和十五年三月三十一日迄ニ産出シタル礦産物ニ對スル礦産税及特別礦
 産税ハ昭和十五年六月中ニ之ヲ徵收ス(昭和十五年三月三十一日以前ニ産出シタル礦産物ニ對スル
 〇支那事變特別税法施行規則ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月三十一日勅令第五百五十四號) 法人資本
 本法ノ附則 昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十五年法律第五十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 昭和十五年三月三十一日以前ニ竣成シタル家屋ノ建築税並ニ昭和十五年三月三十一日以前ニ賦課
 シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ第三種ノ所得ニ對スル所得税、利益配當税、
 公債及社債利子税、通行税、入場税、特別入場税、物品税及遊興飲食税ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

營業收益税

〇營業收益税法ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月二十九日法律第五十一號)
 法人ノ附則 昭和十五年三月三十一日以前ニ竣成シタル家屋ノ建築税並ニ昭和十五年三月三十一日以前ニ賦課
 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ營業收益税及個人ノ昭和十四年
 分以前ノ營業收益税ニ關シテハ仍舊法ニ依ル(昭和十五年三月三十一日勅令第五百五十三號)

〇營業收益税法施行規則ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月三十一日勅令第五百五十五號)

附則 本令ハ昭和十五年法律第五十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ營業收益税及個人ノ昭和十四年
 分以前ノ營業收益税ニ關シテハ仍舊令ニ依ル(昭和十五年三月三十一日勅令第五百五十三號)

資本利子税

〇資本利子税法ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月二十九日法律第五十二號)

附則 本法ハ昭和十五年三月二十九日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十五年三月二十九日勅令第五百五十六號)

本法施行前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ資本利子税ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

○資本利子税法施行規則ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月三十一日勅令第五百十六號)

附則

本令ハ昭和十五年法律第五十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ資本利子税ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

法人資本税

○法人資本税法ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月二十九日法律第五十三號)

本法ハ昭和十五年四月二日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ法人資本税ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

○法人資本税法施行規則ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月三十一日勅令第五百十七號)

附則

本令ハ昭和十五年法律第五十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ法人資本税ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

地方稅

第一
第二
第三
第四
第五
第六
第七
第八
第九
第十
第十一
第十二
第十三
第十四
第十五
第十六
第十七
第十八
第十九
第二十
第二十一
第二十二
第二十三
第二十四
第二十五
第二十六
第二十七
第二十八
第二十九
第三十
第三十一
第三十二
第三十三
第三十四
第三十五
第三十六
第三十七
第三十八
第三十九
第四十
第四十一
第四十二
第四十三
第四十四
第四十五
第四十六
第四十七
第四十八
第四十九
第五十
第五十一
第五十二
第五十三
第五十四
第五十五
第五十六
第五十七
第五十八
第五十九
第六十
第六十一
第六十二
第六十三
第六十四
第六十五
第六十六
第六十七
第六十八
第六十九
第七十
第七十一
第七十二
第七十三
第七十四
第七十五
第七十六
第七十七
第七十八
第七十九
第八十
第八十一
第八十二
第八十三
第八十四
第八十五
第八十六
第八十七
第八十八
第八十九
第九十
第九十一
第九十二
第九十三
第九十四
第九十五
第九十六
第九十七
第九十八
第九十九
第一百

新稅法(地方稅)目次

(昭和六年三月三十一日法律第六〇號)

地方稅

○地方稅法	昭和六年三月三十一日法律第六〇號	一
第一章 總則		一
第一節 通則		一
第二節 賦課		三
第三節 徵收		八
第一款 普通徵收		八
第二款 特別徵收		一六
第二章 普通稅		一〇
第一節 府縣稅		一〇

- 第一款 附加税 一〇
- 第二款 獨立税 一一
- 第二節 市町村税 一二
 - 第一款 附加税 一三
 - 第二款 獨立税 一四
- 第三章 目的税 一五
- 第四章 補則 一六
- 地方税法施行令 昭一五、三 勅 一九八 一六
- 地方税方及地方税施行令ニ依ル許可ノ特例ニ關スル件 昭一六、一 勅 三六 一七
- 地方税法施行規則 昭一五、四 内務大藏省令 一 一七
- 地方税法中指定ノ件 昭一五、四 内務大藏告示 二 一七
- 地方税法中指定ノ件 昭一五、四 一七
- 地方税法中指定ノ件 昭一五、四 一七

- 地方税法施行令第七條ノ規定ニ依リ税ヲ指定ノ件 昭一五、七 一八
- 營業税ノ分割ニ關スル届出事項ノ指定 昭一五、四 一五
- 地方税法並ニ同法施行ニ關スル命令ノ實施ニ關スル件 昭一五、四 依 命 通 牒 一六
- 地方分與税法 昭一五、三 法 六一 一六
- 第一章 總則 一六
- 第二章 還付税 一六
- 第三章 配付税 一七
- 第一節 通則 一七
- 第二節 道府縣配付税 一七
- 第三節 市町村配付税 一七
- 第一款 通則 一七
- 第二款 大都市配付税 一七

第三款 都市配付税

第四款 町村配付税

第四章 補則

附則

○地方分與税法施行規則

昭一五、八 内務大藏省令三

○地方分與委員會官制

昭一五、七 勅 四六二

○地方分與税分與金特別會計法

昭一五、三 法 六七

○昭和十六年度ニ於ケル配付税ノ一部交付ニ關スル件

昭一六、四 内務大藏省令二

○臨時地方税措置ニ關スル件

昭一五、三 勅 一九九

○臨時地方税措置ニ關スル勅令改正ニ關スル件

昭一五、四 依命 通 牒

○府縣制(抄)

明三二、三 法 六四

○市制(抄)

明四四、四 法 六八

○町村制(抄)

明四四、四 法 六八

○府縣制施行令(抄)

明四四、四 法 六九

○市町村制施行令(抄)

大一一、六 勅 二〇〇

○北海道會法(抄)

大一一、六 勅 二〇一

○北海道地方費法(抄)

明三四、三 法 二

○直接税ノ種類別ノ件

明三四、三 法 三

○六大都市行政監督ニ關スル法律

昭一五、四 内務告示 一五〇

○六大都市行政監督特例

大一一、三 法 一

○地方税減免法令

大一一、三 法 一

○六大都市行政監督特例

大一一、三 法 一

○地方税減免法令

大一一、三 法 一

【目次】

本法中市町村ニ關スル規定ヲ北海道ノ市ニ適用スル場合ニ於テハ府縣知事又ハ府縣參事會トア
ルハ夫々北海道廳長官又ハ北海道參事會トスルニテハ夫々府縣知事又ハ府縣參事會トスルニテハ
第二條ノ府縣稅トシテ課スルコトヲ得ベキモ左ノ如キ事會又ハ北海道廳長官又ハ北海道參事會トシテ
市町村稅トシテ課スルコトヲ得ベキモ左ノ如キ事會又ハ北海道廳長官又ハ北海道參事會トシテ
第一條ノ市町村稅トシテ課スルコトヲ得ベキモ左ノ如キ事會又ハ北海道廳長官又ハ北海道參事會トシテ

一 普通稅 市町村稅トシテ課スルコトヲ得ベキモ左ノ如キ事會又ハ北海道廳長官又ハ北海道參事會トシテ

二 特別附加稅 市町村稅トシテ課スルコトヲ得ベキモ左ノ如キ事會又ハ北海道廳長官又ハ北海道參事會トシテ

三 獨立稅 市町村稅トシテ課スルコトヲ得ベキモ左ノ如キ事會又ハ北海道廳長官又ハ北海道參事會トシテ

四 附加稅 市町村稅トシテ課スルコトヲ得ベキモ左ノ如キ事會又ハ北海道廳長官又ハ北海道參事會トシテ

五 目的稅 市町村稅トシテ課スルコトヲ得ベキモ左ノ如キ事會又ハ北海道廳長官又ハ北海道參事會トシテ

六 地方團體ニ於テ地方稅及其ノ賦課徵收ニ關シ必要ナル事項ヲ定ムルハ條例ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第二條 賦課 地方團體内ニ住所、居所、家屋敷、事務所又ハ營業所ヲ有スル者ハ地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

地方團體内ニ住所、居所、家屋敷、事務所又ハ營業所ヲ有セズト雖モ地方團體内ニ於テ土地、家屋又ハ物件ヲ所有シ、使用シ又ハ占有スル者ハ其ノ土地、家屋若ハ物件又ハ其ノ收入ニ對シ

課スル地方稅ヲ、地方團體内ニ於テ一定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ行爲ニ對シ課スル地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第五條 法人合併シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ハ合併ニ

因リ消滅シタル法人ニ賦課セラルベキ地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

法人解散シタル場合ニ於テ其ノ法人ニ賦課セラルベキ地方稅ヲ納付セズシテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ清算人ハ殘餘財產ノ價額ヲ限度トシテ連帶シテ其ノ法人ニ賦課セラルベキ地方稅ヲ

納ムル義務ヲ負フ

相続開始アリタル場合ニ於テ相續人又ハ相續財團ハ相続開始前ノ事實ニ付被相續人ニ賦課セラ

ルベキ地方稅ヲ納ムル義務ヲ負フ但シ國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ

相続ニ因リテ得タル財産ノ價額ヲ限度トシテ其ノ義務ヲ負ヒ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ因リ家督

相續ノ開始アリタルトキハ被相續人モ亦其ノ義務ヲ負フ
 第六條 納稅義務者ノ地方團體外ニ於テ所有シ、使用シ若ハ占有スル土地、家屋若ハ物件又ハ其ノ收入ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ地方團體外ニ於テ營業所ヲ設ケテ爲ス營業又ハ其ノ收入ニ對シ亦同ジ

第七條 數府縣ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニ關係府縣ニ於テ賦課スル營業稅附加稅（營業稅割ヲ含ム）ノ課稅標準タルベキ本稅額ハ本稅ヲ決定シタル稅務官署ノ定ムル所ニ依ル
 稅務官署ハ本稅ヲ決定シタルトキハ直ニ前項ノ規定ニ依リ本稅額ヲ定メ之ヲ關係府縣知事ニ通知スベシ

關係府縣知事ニ於テ第一項ノ規定ニ依リ稅務官署ノ定メタル本稅額ニ異議アルトキハ內務大臣及大藏大臣本稅額ヲ定ム
 前項ノ異議ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ申出ツベシ

內務大臣及大藏大臣第三項ノ異議ノ申出ヲ受理シタルトキハ三月以内ニ之ヲ決定スベシ
 第八條 同一府縣内又ハ數府縣内ノ數市町村ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニ關係市町村ニ於テ賦課スル營業稅附加稅（營業稅割ヲ含ム）ノ課稅標準タルベキ本稅額ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一 關係市町村同一府縣内ニ在ルトキハ當該市町村ニ付府縣知事ノ定ムル額

二 關係市町村數府縣ニ互ル場合ニ於テ一府縣内ノ關係市町村一ナルトキハ前條ノ規定ニ依リ

定リタル當該府縣ノ本稅額

三 關係市町村數府縣ニ互ル場合ニ於テ一府縣内ノ關係市町村二以上ナルトキハ前條ノ規定ニ

依リ定リタル當該府縣ノ本稅額ニ基キ當該市町村ニ付府縣知事ノ定ムル額

前項ノ規定ニ依リ定リタル本稅額ハ府縣知事直ニ之ヲ關係市町村長ニ通知スベシ

關係市町村長ニ於テ第一項第一號又ハ第三號ノ規定ニ依リ府縣知事ノ定メタル本稅額ニ異議アルトキハ本稅額ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

前條第四項及第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 鑛區又ハ砂鑛區ガ數府縣又ハ數市町村ニ互ル場合ニ關係地方團體ニ於テ賦課スル鑛區稅

附加稅ノ課稅標準タルベキ本稅額ハ鑛區又ハ砂鑛區ノ面積ニ依リ本稅ヲ按分シタルモノニ依

ル

漁場ガ數市町村ニ互ル場合ニ關係市町村ニ於テ賦課スル漁業權稅附加稅ノ課稅標準タルベキ本

稅額ハ漁場ノ面積ニ依リ本稅ヲ按分シタルモノニ依ル

第十條 年稅又ハ期稅タル地方稅ノ賦課期日後納稅義務ノ發生シタル者ニハ其ノ發生シタル月ノ

翌月ヨリ月割ヲ以テ地方税ヲ賦課ス
 前項ノ地方税ノ賦課期日後納税義務ノ消滅シタル者ニハ其ノ消滅シタル月迄月割ヲ以テ地方税
 ヲ賦課ス

第一項ノ地方税ノ賦課後其ノ課税客體ノ承継アリタル場合ニ於テハ前ノ納税者ノ納税ヲ以テ後
 ノ納税義務者ノ納税ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用セズ

命令ヲ以テ指定スル税目ニ付テハ第二項ノ規定ニ拘ラズ賦課後納税義務消滅スルモ既ニ交付シ
 タル徵税令書又ハ徵税傳令書ニ記載シタル賦課額ハ之ヲ變更セズ

月税タル地方税ノ賦課期日後納税義務ノ發生シタル者ニハ其ノ發生シタル月ノ翌月ヨリ地方税
 ヲ賦課シ其ノ賦課期日後納税義務ノ消滅シタル者ニハ其ノ消滅シタル月分ノ全額ヲ賦課ス

一ノ地方團體ニ於テ納税義務消滅シ他ノ地方團體ニ於テ納税義務發生シタルトキハ納税義務ノ
 發生シタル地方團體ハ納税義務ノ消滅シタル地方團體ニ於テ賦課シタル部分ニ付テハ地方税ヲ
 賦課スルコトヲ得ズ

第十一條 國稅附加税(地租割、家屋税割及營業税割ヲ含ム)ノ賦課率ハ本税ノ屬スル年ノ四月一
 日ニ始ル年度ノ賦課率ニ依ル但シ法人ノ營業稅附加税(營業稅割ヲ含ム)ノ賦課率ハ法人ノ事業
 年度終了ノ日又ハ合併若ハ解散ノ日ノ屬スル年度ノ賦課率ニ依ル

府縣稅附加税(府縣稅獨立稅割及市町村稅獨立稅割ヲ含ム)ノ賦課率ハ本税ノ屬スル年度ノ賦課
 率ニ依ル

第十二條 左ニ掲グルモノニ對シテハ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ但シ第一號、第三號及第四號ニ
 掲グル土地、家屋又ハ物件ヲ他ニ使用收益セシムル場合ニ於テ其ノ使用收益ヲ爲ス者ニ課スル
 ハ此ノ限ニ在ラズ

一 神社、寺院又ハ教會ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地又ハ構内地但シ有料ニテ使用スルモノ
 ヲ除ク

二 國、地方團體其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ事業又ハ行爲

三 國、地方團體其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共用ニ供スル家屋又ハ
 物件但シ有料ニテ使用スルモノヲ除ク

四 國有ノ土地、家屋又ハ物件

五 地租法第六十五條及第六十六條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除セラレタル土地但シ其ノ年度分ニ
 限ル

前項ニ掲グルモノヲ除クノ外地方税ヲ課スルコトヲ得ザルモノハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
 第十三條 地方團體ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課税ヲ不適當トスルトキハ課税ヲ爲サザルコト

地方團體ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ必要アルトキハ不均一ノ課税ヲ爲スコトヲ得
 第十四條 地方團體ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ地方團體ハ不均一ノ課税ヲ爲シ又
 ハ其ノ一部ニ課税ヲ爲スコトヲ得

第三節 徵收

第一款 普通徵收

第十五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ但シ第十七
 條第二項、第三十五條第一項又ハ第四十二條第一項ノ規定ニ依リ徵收スルモノニ付テハ此ノ限
 ニ在ラズ

府縣ハ前項ノ規定ニ依ル徵收ノ費用ヲ補償スル爲メ徵收金額及徵稅傳令書數ニ應ジ府縣條例ノ定
 ムル所ニ依リ其ノ市町村ニ對シ取扱費ヲ交付スベシ

前項ノ規定ニ依ル府縣條例ノ規定ハ內務大臣ノ許可ヲ受クベシ
 第十六條 市町村避クベカラザル事故ニ因リ既收ノ府縣稅ヲ失ヒタルトキハ府縣知事ハ其ノ申請
 ニ依リ税金納入ノ義務ヲ免除スベシ

府縣知事前項ノ申請ヲ受理シタル日ヨリ三月以内ニ前項ノ規定ニ依ル免除ヲ爲サザルトキハ市
 町村ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル訴願ノ提起ハ處分ヲ受ケタル日又ハ之ヲ受ケズシテ前項ノ期間ヲ經過シタル
 トキヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スベシ

內務大臣訴願ヲ受理シタルトキハ三月以内ニ之ヲ裁決スベシ

第十七條 府縣稅ヲ賦課徵收セントスルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏
 員ハ市町村ニ對シ徵稅命令書ヲ發シ市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ徵稅命令書
 ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ納稅者ニ交付スベシ

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員ハ納稅者ニ對シ直接ニ徵稅命令書ヲ交付スル
 コトヲ得

第十八條 市町村稅ヲ賦課徵收セントスルトキハ市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ
 徵稅命令書ヲ納稅者ニ交付スベシ

第十九條 第十七條第一項ノ徵稅傳令書又ハ前條ノ徵稅命令書ヲ受ケタル納稅者ハ其ノ税金ヲ市町
 村ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

第十七條第二項ノ徵稅命令書ヲ受ケタル納稅者ハ其ノ税金ヲ府縣ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅
 ノ義務ヲ了ス

市町村ハ其ノ徵收シタル府縣稅ヲ府縣ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ税金納入ノ義務ヲ了ス
税金ノ拂込又ハ納入ニ付郵便長替貯金ノ方法ニ依リタル場合ニ於テハ納稅者又ハ市町村ハ税金
ヲ郵便官署ニ拂込ムニ依リテ其ノ義務ヲ了ス

第二十條 府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又
ハ徵稅傳令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

市町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ
受ケタル日ヨリ三十日以内ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事又ハ市町村長ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會又ハ市
參事會者ハ町村會ノ決定ニ付スベシ

前項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣稅ニ付テハ行政裁判所ニ出訴シ市町村
稅ニ付テハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得第六
項ノ訴願ニ對スル裁決ニ不服アルトキ亦同ジ

第三項ノ府縣參事會ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員ヨリモ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ市參事會又ハ町村會ノ決定ニ付テハ市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ヨリ

モ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得
第四項ノ裁決又ハ前項ノ訴願ニ對スル裁決ニ付テハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏
員又ハ府縣知事ヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

府縣制第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ前七項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 府縣稅ノ徵稅令書若ハ徵稅傳令書又ハ市町村稅ノ徵稅令書ヲ受ケタル納稅者納期限
迄ニ税金ヲ完納セザルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員又ハ市町村長若ハ
其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ遅クトモ納期限後二十日目迄ニ督促狀ヲ發スベシ

督促狀ニハ條例ヲ以テ定ムル期間内ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スベシ
特別ノ事情アル地方團體ニ於テハ條例ヲ以テ第一項ニ規定スル期限ト異リタル期限ヲ定ムルコ
トヲ得

第二十二條 前條ノ督促狀ヲ發シタルトキハ手数料ヲ徵收スベシ
前項ノ手数料ノ額ハ條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

府縣稅ニ關シ市町村吏員ヲシテ督促狀ヲ發セシメタル場合ニ於ケル手数料ハ其ノ市町村ノ收入
トス

第二十三條 第二十一條ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者督促狀ノ指定期限迄ニ税金及督促手数料

ヲ完納セザルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員又ハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ條例ヲ以テ定ムル期間内ニ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スベシ
 前項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣稅ニ在リテハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員、市町村稅ニ在リテハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員又ハ府縣知事ヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル處分中差押物件ノ公賣ハ差押處分ノ確定ニ至ル迄之ヲ停止ス
 第一項ノ規定ニ依ル處分ハ其ノ地方團體ノ區域外ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

府縣制第三十八條、第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ第二項及第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ一日ニ付稅金額ノ一萬分ノ四以内ニ於テ條例ノ定ムル割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ稅金完納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
 一 徵稅令書又ハ徵稅傳令書一通ノ稅金額五圓未滿ナルトキ

二 納期ヲ繰上ゲ徵收ヲ爲ストキ
 三 納稅者ノ住所及居所ガ不明ナル爲又ハ帝國内ニ在ラザル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ命令又ハ督促ヲ爲シタルトキ

第四 滯納ニ付酌量スベキ情狀アリト認ムルトキ
 督促狀ノ指定期限迄ニ稅金及督促手数料ヲ完納シタルトキハ延滞金ハ之ヲ徵收セズ

第二十五條 府縣ノ徵收金(府縣稅並ニ其ノ督促手数料、延滞金及滯納處分費)ハ國ノ徵收金ニ、市町村ノ徵收金(市町村稅並ニ其ノ督促手数料、延滞金及滯納處分費)ハ府縣ノ徵收金ニ次デ先取特權ヲ有シ其ノ追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル但シ附加稅タル地方稅ニシテ本稅ノ決定ニ因リ賦課シ得ルニ至ルモノノ時効ハ本稅決定ノ日ヨリ進行ス

第二十三條第二項及第三項並ニ府縣制第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 納稅者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ既ニ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ交付シタル地方稅ニ付テハ納期限ト雖モ納稅義務ノ確定シタル稅金ノ全額ヲ徵收スルコトヲ得

一 國稅、地方稅其ノ他ノ公課又ハ徵收ノ囑託ヲ受ケタル滿洲國ノ國稅ニ付滯納處分ヲ受クルトキ

二 強制執行ヲ受クルトキ

三 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

四 相続人限定承認ヲ爲シタルトキ

五 遺言ノ開始アリタルトキ

六 法人解散シタルトキ

七 納税者遺脱ヲ圖ルノ所爲アリト認ムルトキハ罰金五百二十八兩ノ下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル

第二十七條 府縣知事又ハ市町村長ハ條例ノ定ムル所ニ依リ納税者中特別ノ事情アル者ニ對シ納

稅延期ヲ許スコトヲ得

第二十八條 府縣知事又ハ市町村長ハ特別ノ事情アル場合又ハ特別ノ事情アル者ニ限リ府縣知事

會又ハ市町村會ノ議決ヲ經テ地方稅ヲ減免スルコトヲ得

第二十九條 數人合併シタル場合ニ於テ合併ニ因リ消滅シタル法人ノ未納ニ係ル地方稅並ニ其ノ

督促手數料、延滞金及滯納處分費アルトキハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法

人ノ之ヲ納付スル義務ヲ負フ

法人解散シタル場合ニ於テ其ノ法人ノ未納ニ係ル地方稅並ニ其ノ督促手數料、延滞金及滯納處

分費ヲ納付セズシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ清算人ハ殘餘財産ノ價額ヲ限度トシテ連帶シ

テ之ヲ納付スル義務ヲ負フ

相続開始アリタル場合ニ於テ相続開始前ノ事實ニ付被相続人ノ未納ニ係ル地方稅並ニ其ノ督促

手數料、延滞金及滯納處分費アルトキハ相続人又ハ相続財團之ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ國籍

喪失ニ因ル相続人又ハ限定承認ヲ爲シタル相続人ハ相続ニ因リテ得タル財産ノ價額ヲ限度トシ

テ其ノ義務ヲ負フ且主ノ死亡以外ノ原因ニ因リ家督相続ノ開始アリタルトキハ被相続人モ亦其

ノ義務ヲ負フ

第三十條 共有物、共同事業、共同事業ニ因リ生ジタル物件又ハ共同行爲ニ對スル地方稅並ニ其

ノ督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ納税者連帶シテ之ヲ納付スル義務ヲ負フ

公費及雜費以外ノ原因ニ因リ營業權ノ移轉アリタル場合ニ於テ未納ニ係ル地方稅並ニ其ノ督促

手數料、延滞金及滯納處分費アルトキハ新營業權者ハ舊營業權者ト連帶シテ之ヲ納付スル義務

ヲ負フ

第三十一條 同一年度ノ地方稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スベキ同

一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得

第三十二條 納稅義務者納稅地ニ住所、居所、事務所及營業所ヲ有セザルトキハ納稅ニ關スル事項

第三十二條 處理セシムル納税地ニ於テ納税管理人ヲ定メ府縣知事ニ付テハ府縣知事ニ、市町村税ニ付テハ市町村長ニ之ヲ申告スベシ其ノ納税管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十三條 徵稅令書、徵稅傳令書、督促狀及滞納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所、居所、事務所又ハ營業所ニ送達ス名宛人ガ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第三十四條 書類ノ送達ヲ受クベキ者ガ其ノ住所、居所、事務所若ハ營業所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ其ノ者ノ住所、居所、事務所及營業所ガ不明ナルトキ若ハ帝國內ニ在ラザルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第三十五條 地方團體ハ内務大臣及大藏大臣ノ指定スル地方税ニ付テハ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收義務者(以下特別徵收義務者ト稱ス)ハ地方團體ニ對シ其ノ徵收スベキ地方税ヲ納入スルノ義務ヲ負フ

第一項ノ地方税ノ徵收ニ付テハ第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第三十六條 特別徵收義務者其ノ徵收スベキ地方税ヲ正當ノ事由ニ因リ徵收スルコト能ハザリシトキハ府縣知事又ハ市町村長ハ特別徵收義務者ノ申請ニ依リ之ニ相當スル既納ノ金額ヲ還付スベシ

府縣知事又ハ市町村長前項ノ申請ヲ受理シタル日ヨリ三月以内ニ前項ノ規定ニ依ル還付ヲ爲サザルトキハ特別徵收義務者ハ府縣知事ニ付テハ内務大臣ニ訴願シ市町村税ニ付テハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ市町村長又ハ府縣知事ヨリモ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十六條第三項及第四項並ニ府縣制第二百二十八條ノ第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依ル還付ノ方法ハ條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第三十七條 第三十五條第一項ノ規定ニ依リ地方税ヲ徵收セシムル場合ニ於テハ納税者ハ其ノ税金ヲ特別徵收義務者ニ拂込ムニ依リテ納税ノ義務ヲ了ス

地方税 地方自治法 第四編 徵收 特別徵收

一七

特別徴収義務者ハ其ノ徴収スベキ地方税ニ相當スル金額ヲ府縣稅ニ付テハ府縣ニ、市町村稅ニ付テハ市町村ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ税金ノ徴収及納入ノ義務ヲ了ス

第五十八條 特別徴収義務者ハ其ノ徴収スベキ地方税ニ相當スル金額ヲ條例ヲ以テ定ムル期日迄ニ府縣稅ニ付テハ府縣ニ、市町村稅ニ付テハ市町村ニ納入スベシ

第五十九條 特別徴収義務者其ノ徴収スベキ地方税ニ相當スル金額ヲ條例ヲ以テ定ムル期日迄ニ納入セザルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員又ハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ相當ノ期限ヲ指定シ督促狀ヲ發スベシ

第四十條 特別徴収義務者避クベカラザル事故ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ府縣知事又ハ市町村長ハ其ノ申請ニ依リ税金納入ノ義務ヲ免除スベシ

府縣知事又ハ市町村長前項ノ申請ヲ受理シタル日ヨリ三月以内ニ前項ノ規定ニ依ル免除ヲ爲サザルトキハ特別徴収義務者ハ府縣稅ニ付テハ内務大臣ニ訴願シ市町村稅ニ付テハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ市町村長又ハ府縣知事ヨリモ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十六條第三項及第四項並ニ府縣制第二百二十八條ノ二第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條 第五條、第十五條第二項及第三項、第十九條第四項、第二十二條第一項及第二項、

第二十三條乃至第二十六條、第二十九條、第三十條第一項並ニ第三十一條ノ規定ハ第三十五條

第一項ノ規定ニ依リ地方稅ヲ徴收セシムル場合ノ納入金ニ付テハ此ノ場合ニ於テハ第十

五條第三項中内務大臣トアルハ市町村條例ノ規定ニ付テハ府縣知事トス

第四十二條 地方團體ハ内務大臣及大藏大臣ノ指定スル地方稅ニ付テハ第十七條及第十八條ノ規定ニ依ラズ其ノ地方團體ニ於テ發行スル證紙ヲ以テ地方稅ヲ拂込マシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方團體ハ證憑書類其ノ他ノモノニ證紙ヲ貼用セシメ又ハ證紙金額ニ相當スル現金ノ納付ヲ受ケ納稅済印ノ押捺ヲ爲シ證紙ノ貼用ニ代ヘシムルコトヲ得

證紙ヲ貼用スルトキハ證紙ヲ貼用シタルモノノ紙面ト證紙ノ彩紋トニカケテ當該地方團體ノ印章又ハ特別徴収義務者ノ印章若ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スベシ

第四十三條 本法ニ依リ地方稅、督促手数料、延滞金若ハ滞納處分費ヲ納付スベキ者又ハ其ノ者ノ財産ヲ當該地方團體外ニ在ルトキハ府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員又ハ市町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル市町村吏員ハ本人又ハ財産所在地ノ當該官吏又ハ吏員ニ其ノ徴收

ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル徴收金ノ徴收ハ囑託ヲ受ケタル者ノ屬スル地方團體ニ於ケル徴收ノ例ニ依

第一項ノ規定ニ依リ徵收ノ屬託ヲ爲シタル場合ニ於テハ屬託ニ係ル事務及送金ニ要スル費用ハ屬託ヲ受ケタル者ノ屬スル地方團體ノ負擔トシ屬託ニ係ル事務ニ伴フ督促手数料及滯納處分費ハ屬託ヲ受ケタル者ノ屬スル地方團體ノ收入トス

第四十二條 第二章 普通税

第一節 府縣税

第一款 附加税

第四十四條 國税附加税トシテ課スルコトヲ得ベキ府縣税左ノ如シ

一 地租附加税

二 家屋税附加税

三 營業税附加税

四 礦區税附加税

地租附加税ノ課税ニ付テハ地租法第七十條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第四十五條 地租附加税、家屋税附加税及營業税附加税ノ賦課率ハ同一府縣ニ於テハ之ヲ同一ト

爲スベシ但シ負擔ノ均衡上特ニ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條 地租附加税、家屋税附加税又ハ營業税附加税ノ賦課率ガ本税ノ百分ノ百ヲ超ユルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ左ニ掲グル場合ニ於テ賦課率ガ本税ノ百分ノ百

二十ヲ超ニザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 災害應急費、災害復舊費、傳染病豫防費及國營事業費負擔金ニ充ツル爲借入レタル負債ノ

前元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二 災害應急又ハ復舊ノ爲費用ヲ要スルトキ

三 傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

第四十七條 礦區税附加税ノ賦課率ハ本税ノ百分ノ十ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二款 獨立税

第四十八條 獨立税トシテ課スルコトヲ得ベキ府縣税左ノ如シ

段別税

船舶税

自動車税

電柱税

地方税 地方税法 普通税 府縣税 附加税 獨立税

不動産取得稅

漁業權稅

持續者稅

礦權稅

第四十九條 段別稅ハ減租年期地及免租年期地（減租年期地又ハ免租年期地ニ類スル土地ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ對シ評定貨價價格ヲ標準トシテ其ノ所有者（質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ヲ定テ土地權ヲ目的タル土地ニ付テハ其ノ質權者又ハ地上權者）ニ之ヲ課ス但シ減租年期地又ハ免租年期地ト爲リタル年又四月一日ニ始ル年度及其ノ翌年度ヨリ二年度間ハ之ヲ課スルコトヲ得ズ

前項ノ評定貨價價格ノ額地メ貨價價格ニ比準シ當該土地ノ品位及情況ニ應ジ府縣條例ノ定ムル所ニ依リ府縣知事之ヲ定ムベシ

段別稅ハ賦課率小地租ノ稅率ニ其ノ府縣ニ於ケル地租附加稅ノ賦課率ヲ乘ジタルモノヲ超ユルモノト得ズ又ハ大額大租ノ額百ノ一ノ率ニ課スルモノト得ズ

府縣ノ全部又ハ一部ヲ互ニ受替又ハ天災不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ニ付テハ納稅義務者又申附ニ依リ其ノ年度分ノ段別稅ハ之ヲ免除スベシ

段別稅ヲ課スル府縣ニ於テハ減租年期地ニ對シテハ地租附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ第一項但書ノ規定ニ依リ段別稅ヲ課セザル期間地租附加稅ヲ課スルハ此ノ限ニ在ラズ

段別稅ハ耕地整理法第十三條ノ三ノ規定ニ依ル耕地整理減租年期地ニ對シテハ之ヲ課スルコトヲ得ズ但シ開墾減租年期、地目變換減租年期若ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタル場合又ハ耕地整理法第十六條ノ三ノ規定、其ノ墾期規定若ハ昭和六年法律第二十九號附則第十五條ノ規定ニ依リ貨價價格ヲ定ムラレタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條 船舶稅ハ噸噸數二十噸以上ノ船舶ニ對シ主タル定置場所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課スルモノト得ズ

主タル定置場不明ナルトキハ定置場所在ノ府縣中船舶港ノ存スル府縣ニ主タル定置場アルモノト看做ス

前二項ノ規定ノ適用ニ付關係府縣知事意見ヲ異ニスルトキハ其ノ申出ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第五十一條 自動車稅ハ自動車ニ對シ主タル定置場所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

第五十二條 電柱稅ハ電柱ニ對シ其ノ所在ノ府縣ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

第五十三條 不動産取得稅ハ不動産ノ取得ニ對シ其ノ不動産所在ノ府縣ニ於テ其ノ取得者ニ之ヲ課ス

左ニ掲グル不動産ノ取得ニ對シテハ不動産取得税ヲ課スルコトヲ得ズ

第一ニ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル不動産ノ取得... 第二ニ法人ノ合併ニ因ル不動産ノ取得... 第三ニ保險業法ニ依リ會社ガ其ノ保險契約全部ノ移轉契約ニ依リテ不動産ヲ移轉スル場合ニ於ケル不動産ノ取得...

四 委託者ヨリ受託者ニ信託財産ヲ移ス場合ニ於ケル不動産ノ取得

五 委託者ノミガ信託財産ノ元本ノ受益者タル信託ニ因リ受託者ヨリ受益者ニ信託財産ヲ移ス場合ニ於ケル不動産ノ取得

第六ニ信託ノ受託者或シテノ場合ニ於ケル新受託者ノ不動産ノ取得... 第五十四條 漁業權稅ノ漁業權(入漁權ヲ除ク)又ハ其ノ取得ニ對シ其ノ漁場所在ノ府縣ニ於テ其ノ漁業權者又ハ漁業權取得者共之ヲ課ス...

前條第二項第一號及第三號ノ規定ハ前項ノ漁業權ノ取得ニ對スル漁業權稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 狩獵者稅ハ狩獵ノ免許ヲ受クル者ニ對シ其ノ住所地在ノ府縣ニ於テ之ヲ課ス

第五十六條 區枝稅ハ區枝其人他之ニ類スル者ニ對シ其ノ住所地在ノ府縣ニ於テ之ヲ課ス

第二節 市町村稅

第一款 附加稅

第五十七條 國稅附加稅トシテ課スルコトヲ得ヘキ市町村稅左ノ如シ

地租附加稅

家屋稅附加稅

營業稅附加稅

礦區稅附加稅

第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ地租附加稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 府縣稅附加稅トシテ課スルコトヲ得ヘキ市町村稅左ノ如シ

段別稅附加稅

船舶稅附加稅

自動車稅附加稅

電柱稅附加稅

不動産取得稅附加稅

狩獵者稅附加稅

藝妓税附加税

第五十九條 地租附加税、家屋税附加税及營業税附加税ノ賦課率ハ同一市町村ニ於テハ之ヲ同一ト爲スベシ但シ負擔ノ均衡上特ニ必要アル場合ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十條 府縣税附加税(段別税附加税ヲ除ク)ノ賦課率ハ同一市町村ニ於テハ之ヲ同一ト爲スベシ但シ負擔ノ均衡上特ニ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十一條 地租附加税、家屋税附加税又ハ營業税附加税ノ賦課率ガ本税ノ百分ノ二百ヲ超ユルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ但シ左ニ掲グル場合ニ於テ賦課率ガ本税ノ百分ノ二百四十ヲ超エザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 國民學校營繕費、災害應急費、災害復舊費、傳染病豫防費及國營事業費負擔金ニ充ツル爲メ借入レタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二 災害應急費又ハ復舊ノ爲費用ヲ要スルトキ

三 傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

第六十二條 鐵區税附加税ノ賦課率ハ本税ノ百分ノ十ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二款 獨立税

第六十三條 獨立税トシテ課スルコトヲ得ベキ市町村税左ノ如シ

市町村民税

舟税

自轉車税

荷車税

金庫税

扇風機税

屠畜税

犬税

府縣ニ於テ第四十八條ニ掲グル獨立税ヲ課セザルモノアルトキハ市町村ハ之ヲ市町村ノ獨立税トシテ課スルコトヲ得

市町村ハ前二項ニ掲グルモノノ外別ニ税目ヲ起シテ獨立税ヲ課スルコトヲ得
前項ノ獨立税ノ新設及變更ニ付テハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

第六十四條 市町村民税ハ左ニ掲グル者ニ對シ之ヲ課ス但シ貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受

ケ又ハ扶助ヲ受クル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

一 市町村内ニ一戸ヲ構フル個人又ハ一戸ヲ構ヘザルモ獨立ノ生計ヲ營ム個人

二 前號ニ該當セザルモ市町村内ニ事務所、營業所又ハ家屋敷ヲ有スル個人

三 市町村内ニ事務所又ハ營業所ヲ有スル法人

前項第三號ノ法人ニ付テハ其ノ事務所又ハ營業所毎ニ市町村民税ヲ課ス

第六十五條 市町村民税ノ賦課期日ハ十月一日トス

前項ニ定ムルモノノ外市町村民税ノ課税方法ハ市町村條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第六條及第十條ノ規定ハ市町村民税ニ付テハ之ヲ適用セズ

第六十六條 市町村民税ノ納税義務者一人ニ對スル賦課額ハ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

人口七十萬以上ノ市 二千圓

其ノ他ノ市 千五百圓

町村 千圓

市町村民税ノ賦課總額ハ左ノ金額ニ第六十四條ニ定ムル納税義務者數ヲ乘シタル額ヲ超ユルコ

トヲ得ズ

人口七十萬以上ノ市 八圓、六十八圓

其ノ他ノ市 六圓

町村

前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ第六十四條第一項第三號ノ法人ハ其ノ事務所又ハ營業所毎ニ獨立

ノ納税義務者ト看做ス

第六十七條 舟税ハ總噸數二十噸未満ノ舟ニ對シ主タル定繋所所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ

之ヲ課ス

主タル定繋所不明ナルトキハ定繋所所在ノ市町村中船籍港ノ存スル市町村ニ主タル定繋所アル

モノト看做ス

前二項ノ規定ノ適用ニ付關係市町村長意見ヲ異ニスルトキハ其ノ申出ニ依リ府縣知事（關係市

町村）府縣ニ互ル場合ニ於テハ内務大臣）之ヲ定ム

第六十八條 自轉車税ハ自轉車ニ對シ其ノ定置所所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

第六十九條 荷車税ハ荷車ニ對シ其ノ定置所所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

第七十條 金庫税ハ金庫ニ對シ其ノ所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

第七十一條 扇風機税ハ扇風機ニ對シ其ノ所在ノ市町村ニ於テ其ノ使用者ニ之ヲ課ス

第七十二條 屠宰税ハ屠畜ニ對シ其ノ屠殺場所所在ノ市町村ニ於テ其ノ獸畜ノ所有者ニ之ヲ課ス

第七十三條 犬税ハ犬ニ對シ其ノ飼育所所在ノ市町村ニ於テ其ノ所有者ニ之ヲ課ス

第七十四條 第四十九條乃至第五十六條ノ規定ハ第六十三條第二項ノ規定ニ依ル獨立税ノ課税ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第五十條第三項中内務大臣トアルハ府縣知事ニ關係市町村數府

縣ニ互ル場合ニ於テハ内務大臣トアルハ府縣知事ニ關係ス

第三章 目的税

第七十五條 府縣ハ都市計畫法ノ施行ニ要スル費用ニ充ツル爲左ノ都市計畫税ヲ課スルコトヲ得

地租制 地租ノ百分ノ二十五以内

家屋税制 家屋税ノ百分ノ二十五以内

營業税制 營業税ノ百分ノ二十五以内

府縣税獨立税制 府縣税獨立税ノ百分ノ十三以内

第七十六條 市町村ハ都市計畫法ノ施行ニ要スル費用ニ充ツル爲左ノ都市計畫税ヲ課スルコトヲ得

地租制 地租ノ百分ノ六十八以内

家屋税制

家屋税ノ百分ノ六十八以内

營業税制

營業税ノ百分ノ六十八以内

府縣税獨立税制

府縣税獨立税ノ百分ノ三十四以内

市町村税獨立税制

市町村税獨立税ノ百分ノ三十四以内

市町村民税ニ對シテハ市町村税獨立税制ヲ課スルコトヲ得

市町村ハ第一項ニ掲グルモノノ外別ニ税目ヲ起シテ都市計畫税ヲ課スルコトヲ得

前項ノ都市計畫税ノ新設及變更ニ付テハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

第四十四條第二項ノ規定ハ第一項ノ地租制ノ課税ニ付之ヲ準用ス

第七十七條 府縣ハ水利ニ關スル事業ニ要スル費用ニ充ツル爲該事業ニ因リ特ニ利益ヲ受クルキ

地ニ對シ左ノ水利税ヲ課スルコトヲ得

地租制

第七十八條 第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ地租制ノ課税ニ、第四十九條第四項ノ規定ハ前項ノ段別制ノ

課税ニ付之ヲ準用ス

水利税ノ賦課額(數年ヲ期シテ賦課スルトキハ其ノ總額)ハ當該土地ノ受益ノ限度ヲ超ユルコト

第七十八條 市町村ハ水利ニ關スル事業其ノ他土地ノ利益ト爲ルベキ事業ニ要スル費用ニ充ツル爲該事業ニ因リ特ニ利益ヲ受クル土地ニ對シ左ノ水利地益稅ヲ課スルコトヲ得

地租割

段別割

第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ地租割ノ課稅ニ、第四十九條第四項ノ規定ハ前項ノ段別割ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

前條第三項ノ規定ハ水利地益稅ノ課稅ニ付之ヲ準用ス

第七十九條 市町村ハ共同作業場、共同倉庫、共同集荷場其ノ他之ニ類スル施設ニ要スル費用ニ充ツル爲該施設ニ因リ特ニ利益ヲ受クル者ニ對シ共同施設稅ヲ課スルコトヲ得
共同施設稅ノ新設及變更ニ付テハ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ
共同施設稅ノ賦課額(數年ヲ期シテ賦課スルトキハ其ノ總額)ハ當該納稅義務者ノ受益ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條及第六條ノ規定ハ共同施設稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四章 補則

第八十條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ地方稅ヲ遁脫シタル者ニ對シテハ條例ヲ以テ其ノ遁脫シタル金額ノ五倍ニ相當スル金額(其ノ金額十圓未満ナルトキハ十圓)以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノノ外地方稅ノ賦課徵收ニ關シテハ條例ヲ以テ二十圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得
府縣稅ノ賦課徵收ニ關シ過料ヲ科セラレタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市町村稅ノ賦課徵收ニ關シ過料ヲ科セラレタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ市町村長又ハ府縣知事ヨリモ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第二十一條乃至第二十三條及第二十五條並ニ府縣制第二百二十八條及第二百二十八條ノ二ノ規定ハ前五項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十一條 地方稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該官吏及吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間事業經營者ニ關シテハ仍其ノ執務時間内家宅、事務所若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏及吏員ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帯スベシ

第八十二條 町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合會ハ之ヲ町村會、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合條例ハ之ヲ町村條例ト看做ス

第八十三條 本法又ハ他ノ法律ニ定ムルモノヲ除クノ外地方税及其ノ賦課徵收ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十四條 本法ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノハ其ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

本法ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ハ之ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

本法ニ依リ主務大臣又ハ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニシテ輕易ナルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受ケシメザルコトヲ得

第八十五條 主務大臣又ハ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニ付テハ主務大臣又ハ府縣知事ハ許可申請ノ趣旨ニ反セズト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第八十六條 島嶼ニ於ケル地方税及其ノ賦課徵收ニ關シ本法ニ依リ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ

別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

附 則

第八十七條 本法ハ昭和十五年度分地方税ヨリ之ヲ適用ス但シ家屋税附加税及家屋税割ニ關スル規定ハ昭和十七年度分ヨリ之ヲ適用ス

昭和十六年度分迄ニ限り段別税及同附加税ノ課税ニ關シ本法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣ニ在リテハ内務大臣及大藏大臣、市町村ニ在リテハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

宗教團體法第三十五條第一項ノ佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地ニ對シテハ有料ニテ使用セシムルモノヲ除クノ外之ニ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ

第八十八條 明治四十一年法律第三十七號及大正十五年法律第二十四號ハ昭和十四年度分限り之ヲ廢止ス

家屋税及同附加税ニ關シテハ前項ノ規定ニ拘ラズ昭和十六年度分迄ニ限り仍從前ノ規定ニ依ル

第八十九條 昭和十四年度分以前ノ所得稅附加税、營業收益稅附加税及遺產稅附加税ニシテ昭和十五年四月一日以後ニ於テ本稅ノ決定セラルルモノノ賦課ニ付テハ第七條及第八條ノ例ニ依ル第九十條 昭和十四年法律第七十八號第一條第一項ノ規定ニ依リ讓與セラルル不動産ノ取得ニ對

シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ不動産取得税ヲ課スルコトヲ得ズ

第九十一條 市制第六十七條第六號又ハ町村制第四百七條第六號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル特別税ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ内務大臣及大藏大臣ノ指定スル税目ニ限り第六十三條第四項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル獨立税ト看做ス

第九十二條 都市計畫法第八條ヲ削除ス

昭和十四年度分以前ノ都市計畫特別税ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ規定ハ營業收益税割ノ課税ニ付之ヲ準用ス

都市計畫特別税家屋税ニ關シテハ昭和十六年度分迄ニ限り仍從前ノ規定ニ依ル

第九十三條 昭和十五年度及昭和十六年度分ノ家屋税、家屋税附加税及都市計畫特別税家屋税ノ賦課ノ制限ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

昭和十五年度及昭和十六年度分ノ家屋税ノ課税標準タルベキ家屋ノ賃賃價格ハ大正十五年法律第二十四號第十條ノ規定ニ依ル家屋ノ賃賃價格ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ於テ補整ヲ加ヘタルモノニ依ル

家屋税、家屋税附加税及都市計畫特別税家屋税ノ賦課ニ關シテハ前項ノ規定ニ依ル家屋ノ賃賃價格ノ補整ヲ理由トシテ異議ノ申立並ニ訴願及訴訟ノ提起ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十四條 罹災救助基金法中左ノ通改正ス

第四條 削除

第十五條ノ二中「且地租、營業收益税及所得税ノ附加税ノ賦課ガ明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ノ制限ニ達シ」ヲ削ル

昭和十四年度分以前ノ同法第四條ノ規定ニ依ル附加税ニ關シテハ仍從前ノノ規定ニ依ル

第九十五條 昭和七年法律第三十三號附則第二項中「且地租、營業收益税及所得税ノ附加税ノ賦課ガ明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ノ制限ニ達シ」ヲ削ル

第九十六條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 (一)

本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

地方税法第六十一條ノ改正規定ノ適用ニ付テハ昭和十五年度以前ニ於テハ學校營繕費ニ充ツル爲借入タル負債ハ之ヲ國民學校營繕費ニ充ツル爲借入レタル負債ト看做ス

第一條 本令中府縣ニ關スル規定ハ北海道地方費ニ、市町村ニ關スル規定ハ町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ府縣知事及ハ府縣稅卜アルハ夫々北海道廳長官又ハ北海道地方稅卜シ市町村稅卜アルハ町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村ノ町村稅卜ス本令中市町村ニ關スル規定ヲ北海道ノ市ニ適用スル場合ニ於テハ府縣知事卜アルハ北海道廳長官

○地方税法施行令 (昭和十五年三月三十一日勅令第九十八號)

改正沿革 昭和十六年三月三十一日勅令第三百四十二號(一)

第一條 本令中府縣ニ關スル規定ハ北海道地方費ニ、市町村ニ關スル規定ハ町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ府縣知事及ハ府縣稅卜アルハ夫々北海道廳長官又ハ北海道地方稅卜シ市町村稅卜アルハ町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村ノ町村稅卜ス本令中市町村ニ關スル規定ヲ北海道ノ市ニ適用スル場合ニ於テハ府縣知事卜アルハ北海道廳長官

官トス
町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村ト看做ス
第二條 數府縣ニ於テ又ハ同一府縣内若ハ數府縣内ノ數市町村ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス
者ハ内務大臣及大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ營業稅附加稅(營業稅割ヲ含ム)ノ賦課ニ關シ必要ナル
事項ヲ稅務官署又ハ府縣知事ニ届出ツベシ

第三條 地方稅法第十二條第一項第二號及第三號ノ規定ニ依リ公共團體ヲ指定スルコト左ノ如シ

府縣組合

市町村組合

町村組合

市町村内ノ區

學區

水利組合

水利組合聯合

北海道土功組合

第四條 地方稅法第六十一條ノ規定ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニシテ左ニ掲グルモノハ

内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ

一 東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戸市及名古屋市ニ關スルコト

二 人口二十萬以上ノ市(前號ニ掲グル市ヲ除ク)ニ於テ本稅ノ百分ノ二百六十ヲ超エ地租附加

稅、家屋稅附加稅又ハ營業稅附加稅ノ賦課率ヲ定ムルコト

三 前二條ニ掲グル市以外ノ市ニ於テ本稅ノ百分ノ二百八十ヲ超エ地租附加稅、家屋稅附加稅

又ハ營業稅附加稅ノ賦課率ヲ定ムルコト

四 町村ニ於テ本稅ノ百分ノ三百ヲ超エ地租附加稅、家屋稅附加稅又ハ營業稅附加稅ノ賦課率

ヲ定ムルコト

第五條 地方稅法第四十六條又ハ第六十一條ノ規定ニ依ル地租附加稅、家屋稅附加稅又ハ營業稅

附加稅ノ賦課率ノ許可ニ付テハ當該地方團體ノ財政ノ情況ニ應ジ年度ヲ限ルコトヲ得

第六條 内務大臣及大藏大臣ノ指定スル稅ニ關スル地方稅法第六十三條第四項ノ許可ノ職權ハ地

方稅法第八十四條第二項ノ規定ニ依リ府縣知事ニ之ヲ委任ス

第七條 地方稅法第八十四條第三項ノ規定ニ依リ左ニ掲グル事項ニ付テハ許可ヲ受クルコトヲ要

セズ

一 地方稅法第四十六條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル賦課率ヲ低減スルコト

二 地方税法第六十三條第三項、第七十六條第三項又ハ第七十九條第一項ノ規定ニ依ル獨立税
 又ハ目的税ニ付課税標準ヲ變更スルコトナクシテ賦課率又ハ賦課定額ヲ低減スルコト
 第八條 島嶼ニ於ケル府縣税及其ノ賦課徴收ニ關シ地方税法ニ依リ難キ事項ニ付テハ府縣條例ヲ
 以テ之ヲ定ムベシ

島嶼ニ於ケル町村ノ町村税及其ノ賦課徴收ニ關シ地方税法ニ依リ難キ事項ニ付テハ内務大臣及
 大藏大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ムベシ

第九條 本令又ハ他ノ勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外地方税及其ノ賦課徴收ニ關シ必要ナル事項ハ
 内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

附則

第十條 本令ハ昭和十五年分地方税ヨリ之ヲ適用ス但シ家屋税附加税ニ關スル規定ハ昭和十七
 年度分ヨリ之ヲ適用ス

第十一條 左ノ勅令ハ昭和十四年度分限り之ヲ廢止ス但シ大正十五年勅令第三百三十九號第一條
 乃至第六條ノ規定ハ昭和十六年度分迄ニ限り仍其ノ效力ヲ有ス

大正九年勅令第二百八十二號
 大正十五年勅令第四百十三號

大正十五年勅令第二百八十六號

大正十五年勅令第三百三十九號

第十二條 第二條ノ規定ハ地方税法第八十九條及第九十二條第二項ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス
 第十三條 昭和十五年分及昭和十六年度分ノ家屋税ノ賦課率ガ家屋賃貸價格ノ百分ノ三・五ヲ超
 越スルキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ左ニ掲グル場合ニ於テ賦課率ガ家屋賃貸
 價格ノ百分ノ三・五ヲ超エザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 災害復舊費、災害復舊費、傳染病豫防費及國營事業費負擔金ニ充ツル爲借入レタル負債ノ
- 三元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ
- 二 災害復舊費又ハ他ノ費用ヲ要スルトキ
- 三 傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

第十四條 昭和十五年分及昭和十六年度分ノ家屋税附加税ノ賦課率ガ家屋賃貸價格ノ百分ノ三

- 一 五ニ相違スルモノトシテ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ但シ左ニ掲グル場合ニ於テ賦課率
- 一 五ニ相違スルモノトシテ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ但シ左ニ掲グル場合ニ於テ賦課率
- 二 二相違スルモノトシテ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ但シ左ニ掲グル場合ニ於テ賦課率
- 二 二相違スルモノトシテ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ但シ左ニ掲グル場合ニ於テ賦課率
- 三 國營事業費負擔金、災害復舊費、傳染病豫防費及國營事業費負擔金ニ充ツル爲
- 二倍大ニ課税負擔ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

- 二 災害應急又は復舊ノ爲費用ヲ要スルトキ
 - 三 傳染病預防ノ爲費用ヲ要スルトキ
- 前項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニシテ左ニ掲グルモノニ付テハ府縣知事ノ許可ニ代ヘ内務大臣及大蔵大臣ノ許可ヲ受クベシ
- 一 東京市、京都市、大阪市、横浜市、神戸市及名古屋市ニ關スルコト
 - 二 人口二十萬以上ノ市(前號ニ掲グル市ヲ除ク)ニ於テ家屋賃貸價格ノ百分ノ四・五五ニ相當スル率ヲ超ユル賦課率ヲ定ムルコト
 - 三 前二號ニ掲グル市以外ノ市ニ於テ家屋賃貸價格ノ百分ノ四・九ニ相當スル率ヲ超ユル賦課率ヲ定ムルコト
 - 四 町村ニ於テ家屋賃貸價格ノ百分ノ五・二五ニ相當スル率ヲ超ユル賦課率ヲ定ムルコト
- 第十五條 昭和十五年度分及昭和十六年度分ノ都市計畫特別稅家屋稅ノ賦課ノ制限左ノ如シ
- 府縣稅
- 一 家屋賃貸價格ノ百分ノ三・五ノ百分ノ十二・五以内
- 市町村稅
- 一 家屋賃貸價格ノ百分ノ三・五ノ百分ノ三十四以內

附則(一)

本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

地方税法施行令第十四條ノ改正規定ノ適用ニ付テハ昭和十五年度以前學校營繕費ニ充ツル爲借入タル負債ハ之ヲ國民學校營繕費ニ充ツル爲借入レタル負債ト看做ス

○地方税法及地方税法施行令ニ依ル許可ノ特例ニ付

關スル件 (昭和十六年一月十日勅令第三十六號)

北海道、府縣又ハ市町村ガ昭和十五年勅令第五百二十五號ニ準ジ臨時家族手當ヲ給與スル爲地方

地方稅 地方税法及地方税法施行令ニ依ル許可ノ特例ニ關スル件

稅法第四十六條若ハ第六十一條又ハ地方稅法施行令第十三條若ハ第十四條第一項ニ規定スル率ヲ超エ左ノ範圍内ニ於テ地租附加稅、營業稅附加稅、家屋稅又ハ家屋稅附加稅ヲ賦課スル場合ニ於テハ昭和十五年度分ニ限り監督官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

北海道、府縣地

地租附加稅、營業稅附加稅 本稅ノ百分ノ十

家屋稅 本稅ノ百分ノ〇・一七五

市町村

地租附加稅、營業稅附加稅 本稅ノ百分ノ二十

家屋稅 附加稅 家屋賃賃價格ノ百分ノ〇・三五ニ相當スル率

町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村ト看做ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○地方稅法施行規則 (昭和十五年四月一日內務大藏省令第一號)

第一條 本令ニ於テ地方團體トハ府縣及市町村ヲ、條例トハ府縣條例及市町村條例ヲ謂フ

本令中府縣ニ關スル規定ハ北海道地方費ニ、市町村ニ關スル規定ハ町村制ニ代ル制ヲ施行スル

地ノ町村ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ府縣稅又ハ府縣知事トアルハ夫々北海道地方稅又ハ北

海道廳長官トシ市町村稅又ハ市町村長トアルハ夫々町村制ニ代ル制ヲ施行スル地ノ町村ノ町村

稅又ハ町村長トス

本令中市町村ニ關スル規定ヲ北海道ノ市ニ適用スル場合ニ於テハ府縣知事トアルハ北海道廳長

官トス

町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村ト看做ス

第二條 數府縣ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ハ營業稅法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依

ル申告ト同時ニ左ニ掲グル事項ヲ所轄稅務署ニ届出ツベシ

一 法人ニ在リテハ當該事業年度中(清算利益ニ關スルモノニ在リテハ合併又ハ解散ノ日)、個

人ニ在リテハ前年中ニ有シタル營業所ノ名稱及其ノ所在地

二 内務大臣及大蔵大臣ノ指定スル事項(營業所毎ニ區分シタルモノ)

第三條 同一府縣内ノ數市町村ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者營業税法ニ依リ純益金額ノ決定通知ヲ受ケタルトキハ十四日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ關係府縣知事ニ届出ツベシ

一 營業ノ種類

二 法人ニ在リテハ當該事業年度中(清算純益ニ關スルモノニ在リテハ合併又ハ解散ノ日)、個人ニ在リテハ前年中ニ有シタル營業所ノ名稱及其ノ所在地

三 法人ニ在リテハ事業年度(清算純益ニ關スルモノニ在リテハ合併又ハ解散ノ日)、個人ニ在リテハ年別區分

四 純益金額、其ノ決定年月日及其ノ決定ヲ爲シタル稅務官署

五 營業稅額

六 内務大臣及大蔵大臣ノ指定スル事項(營業所毎ニ區分シタルモノ)

數府縣内ノ數市町村ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者營業税法ニ依リ純益金額ノ決定通知ヲ受ケタルトキハ十四日以内ニ當該府縣内ニ於ケル營業所ニ付前項第六號ニ掲グル事項ヲ關係府縣知事ニ届出ツベシ但シ同一府縣内ノ關係市町村一ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 稅務官署地方稅法第七條第二項ノ規定ニ依リ本稅額ノ通知ヲ爲ストキハ併セテ左ニ掲グ

ル事項ヲ通知スベシ

一 營業ノ種類

二 當該府縣内ニ於ケル營業所ノ名稱及其ノ所在地

三 法人ニ在リテハ事業年度(清算純益ニ關スルモノニ在リテハ合併又ハ解散ノ日)、個人ニ在リテハ年別區分

四 純益金額ノ決定年月日

五 營業稅額

第五條 府縣知事地方稅法第八條第二項ノ規定ニ依リ本稅額ノ通知ヲ爲ストキハ併セテ左ニ掲グル事項ヲ通知スベシ

一 營業ノ種類

二 當該市町村内ニ於ケル營業所ノ名稱及其ノ所在地

三 法人ニ在リテハ事業年度(清算純益ニ關スルモノニ在リテハ合併又ハ解散ノ日)、個人ニ在リテハ年別區分

四 純益金額ノ決定年月日

五 營業稅額

第六條 地方税法第九條第二項及第五十四條第一項ニ規定スル漁場トハ漁業法施行規則第十六條

ニ規定スル區域及同令第四十九條第一項ノ規定ニ基キテ設ケタル保護區域ヲ謂フ

第七條 地方税法第十條第四項ノ規定ニ依リ左ノ税目ヲ指定ス

一 舟税 二 舟子税 三 舟子賃金 四 舟子賃金ノ課税ニ關スルニ依リテ舟子又ハ船主ノ負擔スル

一 荷車税 二 自轉車税 三 自轉車税ノ課税ニ關スルニ依リテ自轉車又ハ荷車ノ負擔スル

一 金庫税

一 大税 二 大税ノ課税ニ關スルニ依リテ大税又ハ大税ノ負擔スル

一 舟税

一 自轉車税

一 荷車税

一 金庫税

一 大税

第八條 地方税法第六十六條第一項及第二項並ニ地方税法施行令第四條及第十四條第二項ニ規定

スル人口ハ市制町村制施行規則第一條ニ規定スル人口ニ依ル

第十四條 附則

第九條 本令ハ昭和十五年度分地方税ヨリ之ヲ適用ス

第十條 左ノ省令ハ昭和十四年度分限リ之ヲ廢止ス但シ地方税ニ關スル法律施行規則第一條ノ規

定ハ昭和十六年度分迄ニ限リ仍其ノ效力ヲ有ス

一 大正元年内務省令第十六號

一 大正四年内務省令第六號

一 地方税ニ關スル法律施行規則

一 昭和四年内務省令第十四號

一 昭和四年内務省令第十五號

一 臨時地方財政補給金規則

第十一條 昭和十四年法律第七十八號第一條第一項ノ規定ニ依リ讓與セラルル不動産ニシテ登録

税ノ免除ヲ受クルモノノ取得ニ對シテハ不動産取得税ヲ課スルコトヲ得ズ

第十二條 第二條乃至第五條ノ規定ハ昭和十四年度分以前ノ所得税附加税及營業收益税附加税

(都市計畫特別税營業收益税額ヲ含ム)ニシテ昭和十五年四月一日以後ニ於テ本税ノ決定セラル

ルモノニ付之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ第二條第一項中營業税法第十五條又ハ第十六條トアル

ハ従前ノ所得税法第二十四條若ハ第二十五條又ハ營業收益税法第十一條若ハ第十二條トス
本令公布ノ日前ニ申告ヲ了シタル者ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ル届出ハ本令公布ノ日ヨリ三十
日以内ニ之ヲ爲スベシ

第十三條 昭和十五年四月一日以後ニ於テ鑛産税ノ納税告知ヲ受ケタル者數府縣ニ於テ又ハ同一
府縣内若ハ數府縣内ノ數市町村ニ於テ鑛業ニ關スル事務所其ノ他ノ營業所（鑛區ヲ含ム以下之
ニ同ジ）ヲ設クルモノナルトキハ納税告知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ左ニ掲グル事項ヲ所
轄稅務署又ハ關係府縣知事ニ届出ツベシ

一 鑛物ノ掘採中有シタル營業所ノ名稱及其ノ所在地

二 内務大臣及大藏大臣ノ指定スル事項（營業所毎ニ區分シタルモノ）

稅務官署關係府縣知事ニ本稅額ノ通知ヲ爲ストキハ併セテ左ニ掲グル事項ヲ通知スベシ

一 當該府縣内ニ於ケル營業所ノ名稱及其ノ所在地

第十四條 地方稅ノ賦課徵收ニ關シ従前ノ規定ニ依リ地方團體ノ定メタル條例等ニシテ地方稅法

ニ牴觸セザルモノハ之ヲ地方稅法ニ依リ定メタル條例ト看做ス

雜種稅、雜種稅附加稅又ハ市町村特別稅ニ關シ従前ノ規定ニ依リ地方團體ノ定メタル條例等ニ
シテ地方稅法ニ牴觸セザルモノハ之ヲ夫々府縣稅獨立稅、府縣稅獨立稅附加稅又ハ市町村稅獨
立稅ニ關シ地方稅法ニ依リ定メタル條例ト看做ス

第十五條 神戸市ニ在ル家屋ニ對スル昭和十五年度及昭和十六年度分ノ家屋稅ノ賦課ニ付テハ大
正十五年法律第二十四號第十二條ノ規定ニ依リ決定シタル家屋ノ賃賃價格ヲ以テ同法第十條ノ
規定ニ依リ決定シタル家屋ノ賃賃價格ト看做ス

○地方稅法中指定ノ件（昭和十五年四月一日内務省大藏省告示第二號）

改正 昭和十五年七月十九日内務省大藏省告示第七號

地方稅法第三十五條第一項ノ規定ニ依リ地方稅ヲ指定スルコト左ノ如シ

- 藝妓稅
- 藝妓稅附加稅
- 入湯稅
- 屠畜稅
- 給仕人稅
- 俱樂部稅
- 藝妓稅割
- 入湯稅割
- 屠畜稅割
- 給仕人稅割
- 俱樂部稅割

○地方税法中指定ノ件 (昭和十五年四月一日内務省大蔵省告示第三號)

地方税法第四十二條第一項ノ規定ニ依リ地方税ヲ指定スルコト左ノ如シ

入湯税 入湯税額

○地方税法中指定ノ件 (昭和十五年四月一日内務省大蔵省告示第四號)

地方税法第九十一條ノ規定ニ依リ税目ヲ指定スルコト左ノ如シ

- 商品切手發行税 商品券發行税 立木伐採税
- 森林伐採税 山林立木伐採價格割 牛馬割
- 牛馬頭割 牛頭割 牛馬税 木材輸出税
- 家畜税 林産物輸出税 移出税 軌道税
- 木竹材輸出税 移入税 石類税
- 入湯税 タンク税 備人税
- 種播税 俱樂部税

○地方税法施行令第六條ノ規定ニ

依リ税ヲ指定ノ件 (昭和十五年七月十九日内務省、大蔵省告示第六號)

地方税法施行令第六條ノ規定ニ依リ税ヲ指定スルコト左ノ如シ但シ東京市、京都市、大阪市、横浜市、神戸市及名古屋市ニ關スルモノヲ除ク

- 一 給仕人税 料理店、飲食店、カフェー、バー其ノ他之ニ類スル場所ニ於テ客席ニ侍シ接待ヲ爲ス婦女ニ對シ其ノ従業地所在ノ市町村ニ於テ課スルモノ
- 二 備人税 専ラ家事ニ従事スル常備人ヲ使用スル者ニ對シ其ノ使用地所在ノ市町村ニ於テ課スルモノ
- 三 入湯税 旅館、料理店其ノ他ノ場所ニ於ケル鑛泉ニ入浴スル浴客ニ對シ其ノ浴場所在ノ市町村ニ於テ課スルモノ
- 四 鑛泉税 旅館、料理店其ノ他ノ場所ニ於ケル鑛泉浴場ニ對シ其ノ浴場所在ノ市町村ニ於テ當該浴場ヲ有スル者ニ課スルモノ

○營業税額ノ分割ニ關スル届出事項ノ指定

(昭和十五年四月三十日内務、大藏省告示第五號)

地方税法施行規則第二條第三號、第三條第一項第六號、第十二條第一項及第十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ所轄稅務署又ハ關係府縣知事ニ届出ツベキ事項ヲ指定スルコト左ノ如シ

第一 地方税法施行規則第二條第二號、第三條第一項第六號ニ關スル事項

(一) 物品販賣業

賣上金額、經費

仕入品、原料品ノ代價其ノ他之ニ額スルモノヲ除ク以下之ニ同シ

(二) 銀行業

收入金額 (利益又ハ利息ノ配當及有價證券ノ利子收入ニ付テハ各期末現在ノ預金額ヨリ割引手形及貸付金ノ額ヲ差引キタルモノニ按分シタルモノ)、經費

給付金契約現在高、經費

信託報酬、經費

收入保険料、經費

收入金額

(三) 無盡業

無盡業

(四) 信託業

信託報酬、經費

收入保険料、經費

收入金額

(五) 保險業

收入金額

(六) 金貸付及物品貸付業

收入金額

○營業税額ノ分割ニ關スル届出事項ノ指定

昭和十五年四月三十日内務、大藏省告示第五號

地方税法施行規則第二條第三號、第三條第一項第六號、第十二條第一項及第十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ所轄稅務署又ハ關係府縣知事ニ届出ツベキ事項ヲ指定スルコト左ノ如シ

第一 地方税法施行規則第二條第二號、第三條第一項第六號ニ關スル事項

(一) 物品販賣業

賣上金額、經費

仕入品、原料品ノ代價其ノ他之ニ額スルモノヲ除ク以下之ニ同シ

(二) 銀行業

收入金額 (利益又ハ利息ノ配當及有價證券ノ利子收入ニ付テハ各期末現在ノ預金額ヨリ割引手形及貸付金ノ額ヲ差引キタルモノニ按分シタルモノ)、經費

給付金契約現在高、經費

信託報酬、經費

收入保険料、經費

收入金額

(三) 無盡業

無盡業

(四) 信託業

信託報酬、經費

收入保険料、經費

收入金額

(五) 保險業

收入金額

(六) 金貸付及物品貸付業

收入金額

地方税法施行規則第二條第三號、第三條第一項第六號、第十二條第一項及第十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ所轄稅務署又ハ關係府縣知事ニ届出ツベキ事項ヲ指定スルコト左ノ如シ

第一 地方税法施行規則第二條第二號、第三條第一項第六號ニ關スル事項

(一) 物品販賣業

賣上金額、經費

仕入品、原料品ノ代價其ノ他之ニ額スルモノヲ除ク以下之ニ同シ

(二) 銀行業

收入金額 (利益又ハ利息ノ配當及有價證券ノ利子收入ニ付テハ各期末現在ノ預金額ヨリ割引手形及貸付金ノ額ヲ差引キタルモノニ按分シタルモノ)、經費

給付金契約現在高、經費

信託報酬、經費

收入保険料、經費

收入金額

(三) 無盡業

無盡業

(四) 信託業

信託報酬、經費

收入保険料、經費

收入金額

(五) 保險業

收入金額

(六) 金貸付及物品貸付業

收入金額

- (七) 鐵道、軌道及自動車運搬業 收入金額、經費
- (八) 運送業（運送取扱業ヲ含ミ前號ノ運輸事業ヲ除ク） 收入金額（鐵道納金ニ相當スルモノヲ除ク）、經費
- (九) 瓦斯事業 收入金額、經費
- (十) 製造業（瓦斯事業ヲ除ク） 固定資産、經費
- (十一) 鑛業及砂鑛業 鑛産物價額、經費
- (十二) 土地建物賣買及賣貨業 收入金額（賣買ニ付テハ賣買益金）、經費
- (十三) 水産業 收入金額、經費
- (十四) 請負業 收入金額、經費
- (十五) 其ノ他ノ營業 收入金額、經費
- (十六) 前各號ノ外稅務署長又ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムル事項 收入金額、經費
- (十七) 前各號ノ營業ヲ續スルモノニ在リテハ營業所毎ノ營業所別ニ前各號ニ定ムル事項ヲ記載スルモノトス

ハ其ノ課セズ又ハ免除セラレタル部分ニ相當スル金額ハ之ヲ區分記載スルモノトス
 法人ノ清算純益ニ關スルモノニ付テハ合併又ハ解散ノ日ニ於ケル資産價額ヲ記載スルモノトス

第二 地方税法施行規則第十二條第一項ニ關スル事項

第一ニ掲グル事項ハ地方税法施行規則第十二條第一項ノ規定ニ依ル届出ノ場合ニ之ヲ準用スルモノトス

第三 地方税法施行規則第十三條第一項第二號ニ關スル事項

- (一) 鑛産物價額、鑛區坪數、經費
 - (二) 前號ノ外稅務署長又ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムル事項
- 從前ノ規定ニ依リ鑛産稅ヲ課セラレザル部分ニ相當スル金額ハ之ヲ區分記載スルモノトス

○地方稅法並ニ同法施行ニ關スル命令ノ實施ニ關スル件

依命通牒 (昭和十五年四月一日地方、主稅兩局長內務省發地第三七號各地方長官宛)

地方稅法並ニ同法施行ニ關スル命令夫々公布セラレ候處之ガ實施ニ關シテハ特ニ別記ノ事項御留意ノ上御措置相成度尙管下市町村ニ對シテモ關係ノ事項夫々御示達ノ上實施ニ關シ篤ト留意セシメラレ度

追テ從前ノ地方稅ニ關スル法律命令等ノ施行ニ關スル通牒ニシテ地方稅法、同法施行ニ關スル命令及本通牒ニ牴觸スルモノハ總ベテ自然消滅ト相成ベキ義ニ有之爲念

(別記)

第一 一般的事項

- 一 地方稅及其ノ賦課徵收ニ關スル條例ハ地方稅制簡易化ノ趣旨ニ則リ各種ノ事項ヲ網羅統一シテ規定スルコト
- 二 臨時特定ノ費用ニ充ツル爲増稅ヲ行フ場合ニ在リテハ一般的事項改正ノ形式ニ依ラズ別個ニ臨時府縣稅(市町村稅)増徵條例ヲ以テ規定スルヲ適當トスルコト
- 三 目的稅又ハ分擔金ヲ課シ得ル事件ニ付テハ原則トシテ地方稅法第十四條ノ規定ニ依ル一部

賦課又ハ不均一賦課ハ之ヲ避ケ目的稅制度又ハ分擔金制度ヲ活用スルコト

四 府縣稅徵收交付金ニ付テハ國稅徵收交付金ノ例ニ倣ヒ其ノ總額ニ於テ大體從前ノ規定ニ依ル額ヲ下ラザルコトヲ目途トシ地方稅法第十五條第二項ノ規定ノ趣旨ニ即應スルヤウ規定スルコト

五 地方稅法第十七條第一項ノ規定ハ府縣稅ノ賦課徵收ニ關シ市町村ニ對シテ徵稅命令書ヲ發スルコトヲ得ル者ヲ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏若ハ府縣吏員ニ限リタル趣旨ナルヲ以テ該事務ヲ市町村吏員ニ委任スルコトヲ得ザルモノナルコト

六 地方稅法第二十三條ノ規定ニ依リ市町村吏員ヲシテ府縣稅ノ滯納處分ヲ爲サシムル場合ニ於テ該事務ニ要スル費用ハ市町村ノ負擔タルコト勿論ナルモ此ノ場合ニ於テ納稅者ヨリ徵收スル滯納處分費ハ市町村ノ收入トスベキモノナルコト

七 地方稅法第二十六條第一項ニ規定スル納稅義務ノ確定シタル稅金ノ全額トハ年稅ノモノニ在リテハ其ノ年稅ノ全額ヲ、期稅ノモノニ在リテハ其ノ期分ノ稅ノ全額ヲ意味スルモノナルコト

八 鑛業法第八十八條第二項ノ規定ノ削除並ニ自動車製造事業法第七條、人造石油製造事業法第七條及製鐵事業法第十二條ノ規定ノ改正ニ伴ヒ之等營業用ノ物件等ニ對シテ地方稅ヲ課ス

ルコトヲ得ルコトナリタルモ當該營業專用ノ特殊物件（軌道、索道柱、軌道車坑内送風機等ノ如キモノ）及鑛業權ニ對シテハ課稅セザルコト

九 地方稅ノ滯納處分ハ其ノ地方團體ノ區域外ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ルコトナリタルモ右ハ徵收ノ便宜ト事務ノ簡捷等ヲ圖ルノ趣旨ニ出デタルモノナルヲ以テ之ガ運用ニ當リテハ此ノ趣旨ニ反セザルヤウ關係地方團體トノ連絡ニ充分留意スルコト

第二 附加稅ニ關スル事項

一 附加稅ノ賦課率ハ條例中ニ之ヲ規定スルコト

二 地方稅法第四十六條又ハ第六十一條ノ附加稅賦課率ノ許可ハ年度ヲ限り許可セラレタルモノニシテ其ノ許可ノ年度ヲ經過シタルトキ又ハ許可ノ年度内ニ於テ賦課率ノ引上ヲ爲ストキニ限り許可ヲ受クルヲ要スルモノナルコト

三 地方稅法第六十一條ノ附加稅賦課率ノ許可ニ當リテハ市町村財政ノ情況ヲ精査シ必要ニ應ジ適宜年度ヲ限ルコト

四 地方稅法第四十六條但書又ハ第六十一條但書ノ規定ニ依リ標準率ヲ超エテ賦課スル場合ニ於ケル費用ノ限度ニ付テハ列舉ノ費用ニ特定ノ財源アルトキハ之ヲ控除シタルモノニ依ルモノナルコト

五 地方稅法第四十五條、第五十九條又ハ第六十條ノ規定ノ適用ニ付テハ不均一ノ課稅ヲ爲ス稅ニ在リテハ其ノ稅總額ヲ本稅總額ヲ以テ除シタル率ニ依ルモノナルコト

六 地方稅法第四十六條又ハ第六十一條ノ規定ノ適用ニ付テハ不均一ノ課稅ヲ爲ス稅ノ賦課率ハ其ノ最高ノ賦課率ニ依ルモノナルコト

七 市町村稅府縣稅附加稅ノ賦課率ハ大體本稅ノ百分ノ百ヲ目的トスルコト但シ不動産取得稅附加稅及狩獵者稅附加稅ノ賦課率ハ本稅ノ百分ノ百ヲ超エザルコト

八 戶數割ノ廢止ニ伴ヒ從前戶數割施行地ニ於テ法人ト個人トノ負擔ノ均衡保持ノ見地ヨリ法人ノ所有シ且使用スル家屋ニ對シテ重課ノ目的ヲ以テ爲シタル不均一課稅ハ之ヲ爲サザルコト

九 戶數割ノ廢止ニ伴ヒ從前戶數割ヲ施行セザル地ニ於テ戶數割ノ代稅トシテ家屋稅附加稅ニ付不均一課稅ヲ爲シ又ハ累進率ヲ適用シテ課稅ヲ爲シタルモノハ之ヲ爲サザルコト但累進率ヲ適用シテ課稅シ來リタル市町村ニシテ賦課率均一ト爲スコトニ因リテ負擔ノ激變ヲ生ズルモノニ限り過渡的措置トシテ二年度間ニ過次均一化スルモ差支ナキコト

第三 府縣稅獨立稅ニ關スル事項

一 獨立稅ノ賦課率又ハ賦課定額ハ特ニ指示スルモノヲ除クノ外大體從前ノ雜種稅ノ賦課率又

ハ賦課定額ノ程度ヲ目途トスルコト

二 段別税ニ關スル事項

- 1 段別税ノ課税標準タルベキ評定賃賃價格ノ調査ニ當リテハ稅務官署ト緊密ナル連絡ヲ保チ地租ノ課税標準タル土地賃賃價格トノ均衡ヲ得ルニカムルコト
- 2 段別税ハ減租年期地又ハ免租年期地ノ一方ニ對シテノミ課スルガ如キコトハ之ヲ爲シ得ザルモノナルコト
- 3 段別税ハ各納稅義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル評定賃賃價格ノ合計金額ガ五圓ニ滿タザルモノニ付テハ之ヲ課セザルコト

三 自動車税ニ關スル事項

- 1 自動車税ノ課税客體タル自動車ハ自動車取締令ニ謂フ自動車ヲ指稱スルモノナルコト
- 2 自動車税ノ賦課率又ハ賦課定額ノ目途ニ付テハ後日通課ノ見込ナルコト

四 電柱税ニ關スル事項

電柱税ノ内容ニ關シテハ後日通課ノ見込ナルコト

五 不動産取得税ニ關スル事項

- 1 不動産取得税ハ土地又ハ家屋ノ取得ニ對シテノミ課スルコト

2 不動産取得税ノ賦課率ハ不動産價格ノ千分ノ十六ヲ超エザルコト

六 漁業權税ニ關スル事項

- 1 漁業權ノ存續期間更新ノ免許ニ付テハ漁業權ノ取得ニ對スル漁業權税ハ之ヲ課セザルコト
- 2 漁場ガ道府縣ノ内外ニ互ル場合ニ於テハ重複課税トナラザルヤウ充分留意スルコト
- 3 漁業權税ノ賦課總額ハ其ノ府縣ニ於ケル從前ノ漁業稅總額ヲ超エザルコト

七 狩獵者税ニ關スル事項

狩獵者税ハ狩獵者免許税ノ百分ノ十三ヲ超エザルコト

八 藝妓税ニ關スル事項

地方稅法第五十六條ニ所謂「其ノ他之ニ類スル者」トハ酌婦雇仲居ノ如ク花代ノ類ヲ得テ客席ニ侍スル者ヲ謂ヒ、所謂女給ノ如キハ之ヲ包含セザル趣旨ナルコト

第四 市町村稅獨立税ニ關スル事項

- 一 獨立税(市町村民稅ヲ除ク)ノ賦課率又ハ賦課定額ハ特ニ指定スルモノヲ除クノ外大體從前府縣稅雜種稅トシテ賦課シタル額ト之ニ對スル附加稅額トノ合算額ノ程度ヲ目途トスルコト
- 二 市町村民稅ニ關スル事項

- 一 市町村民税ハ總ベテノ市町村ニ於テ之ヲ課スルコト
- 二 市町村民税ノ内容ニ關シテハ後日通牒ノ見込ナルコト
- 三 舟税ニ關スル事項
 - 總噸數五噸未満ノ舟(遊船ノ類ヲ除ク)ニ對シテハ舟税ハ之ヲ課セザルコト
- 四 自轉車税ニ關スル事項
 - 自轉車税ノ賦課額ハ普通二輪車一輛ニ付二圓ヲ超エザルコトトシ其ノ他ノモノニ付テハ之ト均衡ヲ保タシムルコト
- 五 荷車税ニ關スル事項
 - 荷積小車ニ對シテハ荷車税ハ之ヲ課セザルコト
- 六 金庫税ニ關スル事項
 - 金庫税ノ課税客體ニハ建物ノ一部ヲ金庫ニ利用スルモノノ如キハ之ヲ包含セザルコト
- 七 屠宰税ニ關スル事項
 - 地方税法第七十二條ニ所謂獸畜トハ屠場法第一條第二項ニ規定スル獸畜ヲ指稱スルモノナルコト
- 八 其ノ他ニ關スル事項

第五 目的税ニ關スル事項

- 一 都市計畫税中地租割、家屋税割及營業税割ノ賦課率ハ負擔ノ均衡其ノ他特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ同一ト爲スコト
 - 二 地方税法第七十七條又ハ第七十八條ニ所謂水利ニ關スル事業トハ用排水事業、溜池ノ新築改築又ハ修築ノ如キヲ、土地ノ利益トナルベキ事業トハ林道、農道ノ新設又ハ改修、耕地ノ床締、客土、防潮、防水ノ施設ノ如キヲ指稱スルモノナルコト
 - 三 地方税法第七十七條乃至第七十九條ニ所謂費用ニハ事業又ハ事業ノ爲借入レタル負債ノ元利償還ニ要スル費用ハ勿論前項ニ掲グルガ如キ施設ノ維持ニ要スル費用ヲモ包含スルモノナルコト
 - 四 前項ニ依リ負擔セシムルコトヲ得ベキ費用ニ付テハ特定收入アルモノハ之ヲ控除シタル額ヲ以テ限度トスルコト
- 第六 其ノ他ニ關スル事項
- 一 市町村ノ一部事務組合ハ地方税法ノ施行ニ依リ組合税ヲ課スルコトヲ得ザルニ至リタルコト

二 實質上區稅又ハ學區稅タルモノヲ市町村稅ノ課稅形式ニ依リ徵收スルコトハ爾今之ヲ爲サザルコト

三 明治二十一年關令第十二號ニ規定スル貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ハ昭和十五年度以降ハ之ヲ課セザルコト

○地方分與稅法 (昭和十五年三月二十九日法律第六十一號)

改正 昭和十六年三月一日法律第十二號(一) 昭和十六年三月六日法律第三十八號(二)

第一章 總則

第一條 還付稅及配付稅ヲ以テ地方分與稅トシ還付稅ハ道府縣ニ、配付稅ハ道府縣及市町村ニ對シテ之ヲ分與ス

第二條 地租、家屋稅及營業稅ノ徵收額ノ全部ヲ以テ還付稅トス

所得稅及法人稅ノ徵收額ノ百分ノ十七・三八並ニ入場稅及遊興飲食稅ノ徵收額ノ百分ノ五十ヲ以テ配付稅トス

第二章 還付稅

第三條 毎年度分トシテ分與スベキ還付稅ハ當該年度ニ於テ徵收スベキ地租、家屋稅及營業稅トス

地租、家屋稅又ハ營業稅ニ付或ル年度ニ於テ支出シタル拂戻金ハ當該年度ノ徵收稅額ヨリ之ヲ控除ス

第四條 各道府縣ニ分與スベキ還付稅ハ其ノ區域内ニ於テ徵收スベキ地租、家屋稅及營業稅トス 徵道府縣ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニ課スル營業稅ニ付テハ前項ニ規定スル營業稅ノ

額ハ營業稅ヲ決定シタル稅務官署之ヲ定ム
稅務官署ハ營業稅ヲ決定シタルトキハ直ニ前項ノ規定ニ依リ營業稅ノ額ヲ定メ之ヲ關係府縣知事(北海道廳長官ヲ含ム以下之ニ同シ)ニ通知スベシ

關係府縣知事ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ稅務官署ノ定メタル營業稅ノ額ニ異議アルトキハ内務大臣及大藏大臣其ノ額ヲ定ム

前項ノ異議ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ申出ツベシ

内務大臣及大藏大臣第四項ノ異議ノ申出ヲ受理シタルトキハ三月以内ニ之ヲ決定スベシ

第一項ニ規定スル地租、家屋稅又ハ營業稅ニ付支出シタル拂戻金ハ當該道府縣分ノ徵收稅額ヨ

シ之ヲ控除ス

第五條 還付稅ハ毎年度四回ニ分テ之ヲ交付ス

第三章 配付稅

第一節 第一條 通則

第六條 毎年度分トシテ分與スベキ配付稅ノ額ハ前前年度ニ於テ徵收シタル所得稅及法人稅ノ百分ノ十七・三八並ニ入場稅及遊興飲食稅ノ百分ノ五十トス
前項ノ規定ニ依リ分與スベキ配付稅ノ額ガ前年度ニ於ケル分與額ノ百分ノ百十ヲ超過スルトキ

ハ其ノ超過額ハ之ヲ當該年度ニ於テ分與スベキ額ヨリ減額ス

第一項ノ規定ニ依リ分與スベキ配付稅ノ額ガ前年度ニ於ケル分與額ノ百分ノ九十二不足スルト

キハ其ノ不足額ハ之ヲ當該年度ニ於テ分與スベキ額ニ増額ス

第七條 地方財政ノ情況上必要アルトキハ前條ノ規定ニ依リ分與スベキ配付稅ノ額ニ左ノ各號ノ

一 一定ムル額ヲ増額スルコトヲ得

二 前條第二項ノ場合ニ於テハ前年度ニ於ケル分與額ノ百分ノ百十ヲ超過スル額ノ全部又ハ一

部

三 前條第三項ノ場合ニ於テハ前年度ニ於ケル分與額ニ不足スル額ノ全部又ハ一部

四 前條第一項ノ額ガ前年度ニ於ケル分與額ニ不足シ且其ノ百分ノ九十ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ不足額ノ全部又ハ一部

五 當該年度ニ於ケル配付稅ノ收入見込額ガ前條第一項ノ額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ノ全部又ハ一部

第八條

地方財政ノ情況上必要アルトキハ第六條ノ規定ニ依リ分與スベキ配付稅ノ額ヨリ左ノ各

一 一定ムル額ヲ減額スルコトヲ得

二 第六條第二項ノ場合ニ於テハ前年度ニ於ケル分與額ヲ超過スル額ノ全部又ハ一部

二 第六條第三項ノ場合ニ於テハ前年度ニ於ケル分與額ノ百分ノ九十二不足スル額ノ全部又ハ一部

三 第六條第一項ノ額ガ前年度ニ於ケル分與額ヲ超過シ且其ノ百分ノ百十二不足スル場合ニ於テハ其ノ超過額ノ全部又ハ一部

四 當該年度ニ於ケル配付税ノ收入見込額ガ第六條第一項ノ額ニ不足スル場合ニ於テハ其ノ不足額ノ全部又ハ一部

第九條 地方分與税分與金特別會計法第四條ノ規定ニ依ル借入金ノ元利償還上必要アルトキハ當該年度ニ於ケル配付税ノ分與額ヨリ其ノ所要額ヲ減額スルコトヲ得

第十條 配付税ハ左ノ區分ニ依リ道府縣及市町村ニ對シテ之ヲ分與ス

一 道府縣配付税 配付税總額ノ百分ノ六十二

二 市町村配付税 配付税總額ノ百分ノ三十八

第十一條 配付税ノ分與額ハ前年度初日ノ現在ニ依リ各道府縣及市町村ニ付之ヲ算定ス

前項ノ期日後ニ於テ道府縣又ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テハ當該道府縣又ハ市町村ニ對スル配付税ノ分與額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第十二條 配付税ハ毎年度四回ニ分テ之ヲ交付ス

第二節 道府縣配付税

第十三條 道府縣配付税ハ之ヲ第一種配付額及第二種配付額ニ分チ第一種配付額ハ道府縣ノ課税力ヲ標準トシ、第二種配付額ハ道府縣ノ財政需要ヲ標準トシテ之ヲ分與ス

第十四條 第一種配付額及第二種配付額ハ夫々道府縣配付税總額ノ半額トス

第十五條 第一種配付額ハ單位税額ガ道府縣標準單位税額ニ不足スル道府縣ニ對シテ其ノ不足額ニ當該道府縣ノ人口ヲ乘ジタル額ニ按分シテ之ヲ分與ス

單位税額ハ當該道府縣ノ還付税額及國稅附加税額ノ合算額ヨリ災害土木費負債額ノ十五分ノ一ヲ控除シタル額ヲ當該道府縣ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

道府縣標準單位税額ハ全道府縣ノ還付税額及國稅附加税額並ニ道府縣配付税總額ノ合算額ヨリ全道府縣ノ災害土木費負債額ノ十五分ノ一ヲ控除シタル額ヲ全道府縣ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

前二項ノ國稅附加税額ハ賦課率百分ノ百ヲ以テ算定シタル地租附加税、家屋稅附加税及營業稅附加税ノ合算額トス

北海道ニ付テハ北海道拓殖費ノ毎年度支出額中ノ一定部分ヲ北海道ノ人口ヲ以テ除シタル額、沖繩縣ニ付テハ沖繩縣振興事業費ノ毎年度支出額中ノ一定部分ヲ沖繩縣ノ人口ヲ以テ除シタル

額ヲ第二項ノ額ニ加算シタル額ヲ以テ單位稅額トス
前項ノ支出額中ノ一定部分ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 第二種配付額ハ當該道府縣ノ割増人口ニ按分シテ之ヲ分與ス

前項ノ割増人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス
一 三十萬

二 當該道府縣ノ國民學校兒童數ノ人口ニ對スル比率ガ其ノ全道府縣平均率ヲ超過スル道府縣

ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該道府縣ノ人口ニ乘ジタル數ノ四倍(2)

第十七條 單位稅額ガ道府縣標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル道府縣ニ對シテハ第二種配付額ハ之ヲ分與セズ

前二條ノ規定ニ依ル道府縣配付稅ノ額ヲ當該道府縣ノ人口ヲ以テ除シタル額及當該道府縣ノ單位稅額ノ合算額ガ道府縣標準單位稅額ノ一倍半ヲ超過スル道府縣ニ付テハ其ノ超過額ニ當該道府縣ノ人口ヲ乘ジタル額ヲ配付稅ノ分與額ヨリ減額ス

第十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ前條ノ規定ニ該當セザル道府縣ニ對シテ第十條ノ規定ニ準ジ之ヲ再分與ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ再分與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ殘額ヲ生ゼザルニ至ル迄前二項ノ例ニ依リ之ヲ再分與ス

第二十四條 第一號 道府縣 市町村配付稅

第十九條 市町村配付稅ハ大都市配付稅、都市配付稅及町村配付稅ノ三種トス

大都市配付稅ハ大都市ニ、都市配付稅ハ都市ニ、町村配付稅ハ町村ニ對シテ之ヲ分與ス

大都市トハ人口七十萬以上ノ市ヲ、都市トハ人口七十萬未滿ノ市ヲ謂フ

第二十條 大都市配付稅、都市配付稅及町村配付稅ノ各總額ハ左ノ各號ノ額ノ合算額トス

一 市町村配付稅總額ノ半額ヲ大都市、都市又ハ町村ノ平均單位稅額ヲ市町村標準單位稅額ヨリ算除シタル總額ニ各總人口ヲ乘ジタル額ニ按分シタル額

二 市町村配付稅總額ノ半額ヲ大都市、都市及町村ノ各總人口ニ按分シタル額

前項第一號ノ大都市、都市又ハ町村ノ平均單位稅額ハ大都市、都市又ハ町村ノ國稅附加稅額ヲ

夫々ノ總人口ヲ以テ除シタル額トス

第二項第一號ノ市町村標準單位稅額ハ全市町村ノ國稅附加稅額及市町村配付稅總額ノ合算額ヲ

全市町村ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

前二項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業

税附加税ノ合算額トス。前項ノ規定ニ依リ、大都市ノ人口ニ對シテ其ノ不足額ニ

第二十一條 大都市配付税

大都市配付税ハ之ヲ第一種配付額及第二種配付額ニ分テ第一種配付額ハ大都市ノ課税力ヲ標準トシ、第二種配付額ハ大都市ノ財政需要ヲ標準トシテ之ヲ分與ス

第二十二條 第一種配付額及第二種配付額ハ夫々大都市配付税總額ノ半額トス

第一種配付額ハ單位税額ガ大都市標準單位税額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ當該市ノ人口ヲ乘ジタル額ニ按分シテ之ヲ分與ス

單位税額ハ當該市ノ國稅附加税額ヲ當該市ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

大都市標準單位税額ハ全大都市ノ國稅附加税額及大都市配付税總額ノ合算額ヲ全大都市ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

前二項ノ國稅附加税額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加税、家屋税附加税及營業税附加税ノ合算額トス

第二十四條 第二種配付額ハ當該市ノ割増人口ニ按分シテ之ヲ分與ス

前項ノ標準人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス
一 四七五

二 當該市ノ國民學校兒童數ノ人口ニ對スル比率ガ其ノ全市町村平均率ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該市ノ人口ニ乘ジタル數ノ十倍トス

第二十五條 單位税額ガ大都市標準單位税額ノ一倍半ヲ超過スル市ニ對シテハ第二種配付額ハ之ヲ分與セズ

前二條ノ規定ニ依ル大都市配付税ノ額ヲ當該市ノ人口ヲ以テ除シタル額及當該市ノ單位税額ノ合算額ガ大都市標準單位税額ノ一倍半ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過額ニ當該市ノ人口ヲ乘ジタル額ヲ配付税ノ分與額ヨリ減額ス

第二十九條 前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ前條ノ規定ニ該當セザル市ニ對シテ第二十四條ノ規定ニ準ジ之ヲ再分與ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ再分與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス
前項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ標準額ヲ生ゼザルニ至ル迄前二項ノ例ニ依リ之ヲ再分與ス

第三十條 都市配付税

第二十七條 都市配付税ハ之ヲ第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ニ分テ第一種配付額ハ都市ノ課税力ヲ標準トシ、第二種配付額ハ都市ノ財政需要ヲ標準トシ、第三種配付額ハ特別ノ事情アル都市ニ對シ其ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ分與ス

第二十八條 第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ハ夫々都市配付税總額ノ百分ノ四十七・五、百分ノ四十七・五及百分ノ五トス

第二十九條 第一種配付額ハ單位税額ガ都市標準單位税額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ當該市ノ人口ヲ乘シタル額ニ按分シテ之ヲ分與ス

單位税額ハ當該市ノ國稅附加税額ヲ當該市ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

都市標準單位税額ハ全都市ノ國稅附加税額及都市配付税總額ノ合算額ヲ全都市ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

前二項ノ國稅附加税額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加税、家屋稅附加税及營業稅附加税ノ合算額トス

第三十條 第二種配付額ハ當該市ノ國增人口ニ按分シテ之ヲ分與ス
前項ノ國增人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス
一 一萬五千

二 當該市ノ國民學校兒童數ノ人口ニ對セル比率ガ其ノ全市町村平均率ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該市ノ人口ニ乘シタル數ノ十倍トス

第三十一條 第三種配付額ノ分與方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十二條 單位税額ガ都市標準單位税額ノ一倍半ヲ超過スル市ニ對シテハ第二種配付額ハ之ヲ分與ス

第二十九條及第三十條ノ規定ニ依ル都市配付税ノ額ヲ當該市ノ人口ヲ以テ除シタル額及當該市ノ單位税額ノ合算額ガ都市標準單位税額ノ一倍半ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過額ニ當該市ノ人口ヲ乘シタル額ヲ配付税ノ分與額ヨリ減額ス

第三十三條 前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ之ヲ第三種配付額ニ加フ

第四款 町村配付税

第三十四條 町村配付税ハ之ヲ第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ニ分テ第一種配付額ハ町村ノ課税力ヲ標準トシ、第二種配付額ハ町村ノ財政需要ヲ標準トシ、第三種配付額ハ特別ノ事情アル町村ニ對シ其ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ分與ス

第三十五條 第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ハ夫々町村配付税總額ノ百分ノ四十七・五、百分ノ四十七・五及百分ノ五トス

第三十六條 第一種配付額ハ單位税額ガ町村標準單位税額ニ不足スル町村ニ對シテ其ノ不足額ニ當該町村ノ人口ヲ乘シタル額ニ按分シテ之ヲ分與ス

單位税額ハ當該町村ノ國稅附加税額ヲ當該町村ノ人口ヲ以テ除シタル額トス

町村標準單位稅額ハ全町村ノ國稅附加稅額及町村配付稅總額ノ合算額ヲ全町村ノ人口ヲ以テ除

前二項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業

稅附加稅ノ合算額トス。又、前項ノ國稅附加稅額ハ賦課率百分ノ二百ヲ以テ算定シタル地租附加稅、家屋稅附加稅及營業

第三十七條 第二種配付額ハ當該町村ノ割増人口ニ按分シテ之ヲ分與ス。前項ノ割増人口ハ人口ニ左ノ各號ノ數ヲ加ヘタルモノトス。

一、八百
二、當該町村ノ國民學校兒童數ノ人口ニ對スル比率ガ其ノ全市町村平均率ヲ超過スル町村ニ付テハ其ノ超過率ヲ當該町村ノ人口ニ乘ジタル數ノ十倍(2)

第三十八條 第三種配付額ノ分與方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル
第三十九條 單位稅額ガ町村標準單位稅額ノ二倍ヲ超過スル町村ニ對シテハ第二種配付額ハ之ヲ分與セズ

第三十六條及第三十七條ノ規定ニ依ル町村配付稅ノ額ヲ當該町村ノ人口ヲ以テ除シタル額及當該町村ノ單位稅額ノ合算額ガ町村標準單位稅額ノ二倍ヲ超過スル町村ニ付テハ其ノ超過額ニ當該町村ノ人口ヲ乘ジタル額ヲ配付稅ノ分與額ヨリ減額ス

第四十條 前條第二項ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ之ヲ第三種配付額ニ加フ

第四十一條 本法ノ適用ニ付テハ町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル町村ニ準ズベキモノハ之ヲ町村ト看做ス

伊豆七島及小笠原島ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十五條乃至第十七條、第十九條、第二十條、第二十三條乃至第二十五條、第二十九條、第三十條、第三十二條、第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ人口、第十五條ノ還付

稅額、第十五條、第二十條、第二十三條、第二十九條及第三十六條ノ國稅附加稅額、第十五條ノ還付稅總額、第二十條ノ市町村配付稅總額、第二十三條ノ大都市配付稅總額、第二十

九條ノ都市配付稅總額、第三十六條ノ町村配付稅總額、第十五條ノ災害土木費負債額並ニ第十

六條、第二十四條、第三十條及第三十七條ノ國民學校兒童數ハ命令ノ定ムル所ニ依ル(2)

第十四條 地方分與稅ノ分與ノ基礎ニ用フル人口、稅額等ニ付錯誤アリタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ後年度ニ於テ地方分與稅ノ分與ノ基礎ニ用フル人口、稅額等ニ付加算又ハ控

算額ヲ行ヒ分與額ヲ算定ス。又、本法施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲地方分與稅委員會ヲ置ク

地方分與稅委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十五條 本法ニ定ムルモノノ外地方分與稅ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十五年及昭和十六年度ニ限リ第二條乃至第四條ノ規定ニ拘ラズ還付稅中ニハ家屋稅ヲ包
含ス

第三條乃至第四條ノ地租中ニハ昭和十四年分以前ノ地租ヲ包含セズ
第二條第三項及第六條第一項ノ所得稅中ニハ改正前ノ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ包含セズ

第七條第三項及第十五年度ニ於ケル配付稅ノ額ハ第二條第二項ノ規定ニ拘ラズ二億七千七百三十
五萬五千六百二十圓トス

第二條第三項中百分ノ七七・三八トアルハ昭和十六年度ニ於テハ百分ノ十四・一七、昭和十七
年度ニ於テハ百分ノ十七・二五トス

第十四條 昭和十五年及昭和十六年度分トシテ分與スベキ配付稅ノ額ハ第六條第一項ノ規定
ニ拘ラズ二億七千七百三十五萬五千六百二十圓及二億八千百一十一萬四千五百二十七圓ト

第六條第一項中百分ノ十七・三八トアルハ昭和十七年度分ニ付テハ百分ノ二十二・三五、昭和
十八年度分ニ付テハ百分ノ十七・四三トス

第六條第二項及第三項、第七條第一號乃至第三號並ニ第八條第一號乃至第三號ノ規定ハ昭和十
五年及至昭和十七年度分ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十條第一號中百分ノ六十二トアルハ昭和十五年及十五年分ニ付テハ百分ノ六十四(一)

第十條第二號中百分ノ三十八トアルハ昭和十五年及十五年分ニ付テハ百分ノ三十六(一)

第五十條 昭和十五年及十五年分乃至昭和十九年度ニ限リ道府縣配付稅ニハ第一種配付額及第二種配付額
ノ外ニ地方稅收入ノ増變ヲ緩和スル爲メ第三種配付額ヲ設ク

昭和十五年及十五年分乃至昭和十九年度ニ於ケル第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ハ道府縣
配付稅總額ニ左ニ掲グル率ヲ乘ジタル額トス

昭和十五年及十五年分 第一種配付額 百分ノ三十五

昭和十五年及十五年分 第二種配付額 百分ノ三十五

昭和十五年及十五年分 第三種配付額 百分ノ三十

昭和十六年度 第一種配付額 百分ノ三十七・五

昭和十六年度 第二種配付額 百分ノ三十七・五

昭和十六年度 第三種配付額 百分ノ二十五

昭和十七年度

百分ノ四十

百分ノ四十

百分ノ二十

昭和十八年度

百分ノ四十二・五

百分ノ四十二・五

百分ノ十五

昭和十九年度

百分ノ四十五

百分ノ四十五

百分ノ十

第五十一條 道府縣配付稅中第三種配付額ハ新稅額ガ舊稅額ニ不足スル道府縣ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ分與ス

道府縣配付稅中第三種配付額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ半額宛第一種配付額及第二種配付額ニ之ヲ加フ

第五十二條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限り第十七條第一項中第二種配付額トアルハ第二種配付額及第三種配付額トシテ同條第二項中前二條トアルハ第十五條、第十六條及第五十一條第一項トシテ

第五十三條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限り道府縣配付稅額及新稅額ノ合算額ガ舊稅額ニ左ニ掲グル率ヲ乘ジタル額ヲ超過スル道府縣ニ付テハ其ノ超過額ノ三分ノ二ノ額ヲ道府縣配付稅ノ額ヨリ減額シテ之ヲ分與ス

昭和十五年度 百分ノ百十

昭和十六年度 百分ノ百十五

第五十四條 昭和十七年度 百分ノ百二十

昭和十八年度 百分ノ百二十五

昭和十九年度 百分ノ百三十

第五十四條 前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ道府縣配付稅額及新稅額ノ合算額ガ舊稅額ニ左ニ掲グル率ヲ乘ジタル額ニ不足スル道府縣ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ再分與ス

昭和十五年度 百分ノ百

昭和十六年度 百分ノ九十五

昭和十七年度 百分ノ九十

昭和十八年度 百分ノ八十五

第五十五條 昭和十九年度 百分ノ八十五

前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ第十六條ノ規定ニ準ジ全道府縣ニ對シテ之ヲ再分與ス

第五十五條 第五十一條及前二條ノ舊稅額ハ昭和十三年度ニ於ケル道府縣稅額ニ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正ニ因ル負擔ノ増加額ヲ加ヘ警察費連帶支辨金支出方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減ジタルモノトス但シ北海道ニ付テハ三十二萬六千

國、沖繩縣ニ付テハ二十萬圓ヲ之ニ加テ、昭和三十九年度ニ付テハ、昭和三十八年度ノ非課税額トス。昭和三十九年度ノ非課税額トス。

第五十一條及前二條ノ新税額ハ改正後ノ道府縣税額及還付税額ノ合算額トス。昭和三十九年度ノ非課税額トス。

第十條ノ道府縣税額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正ニ因ル負擔ノ増加額、警察費連帶支拂金ノ支出方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額並ニ前項ノ改正後ノ道府縣税額及還付税額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル。

第五十九條 昭和三十九年度乃至昭和三十九年度ニ限り第二十二條ノ規定ニ依リ算出シタル大都市配付税額、都市配付税又ハ町村配付税ノ各總額ト新税ノ各總額トノ合算額ガ舊税ノ各總額ニ左ニ掲グル率ヲ乘シタル額ヲ超過スルモノニ付テハ其ノ超過額ノ三分ノ二ノ額ヲ大都市配付税、都市配付税又ハ町村配付税ノ總額ヨリ減額ス。

昭和三十九年度 百分ノ百十

昭和三十八年度 百分ノ百十五

昭和三十七年度 百分ノ百二十五

昭和三十六年度 百分ノ百三十

昭和三十五年度 百分ノ百十

第五十七條 前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ大都市配付税、都市配付税又ハ町村配付税ノ各總額ト新税ノ各總額トノ合算額ガ舊税ノ各總額ニ左ニ掲グル率ヲ乘シタル額ニ不足スルモノニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ大都市配付税、都市配付税又ハ町村配付税ノ總額ニ増額ス。

昭和三十五年度 百分ノ百

昭和三十六年度 百分ノ九十五

昭和三十七年度 百分ノ九十

昭和三十八年度 百分ノ八十五

昭和三十九年度 百分ノ八十

前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ大都市、都市及町村ノ各總人口ニ按分シテ之ヲ大都市配付税、都市配付税及町村配付税ノ各總額ニ増額ス。

第五十八條 前二條ノ舊税ノ總額ハ昭和三十九年度ニ於ケル市町村税額ヨリ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減シタルモノトス。

前二條ノ新税ノ總額、前條第二項ノ總人口並ニ前項ノ市町村税額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル。

第五十九條 昭和三十九年度乃至昭和三十九年度ニ限り第一種配付額及第二種配付

第一種配付額ノ各總額トノ合算額ガ舊税ノ各總額ニ左ニ掲グル率ヲ乘シタル額ニ不足スルモノニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ大都市配付税、都市配付税又ハ町村配付税ノ總額ニ増額ス。

昭和三十五年度 百分ノ百

昭和三十六年度 百分ノ九十五

昭和三十七年度 百分ノ九十

昭和三十八年度 百分ノ八十五

昭和三十九年度 百分ノ八十

前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ大都市、都市及町村ノ各總人口ニ按分シテ之ヲ大都市配付税、都市配付税及町村配付税ノ各總額ニ増額ス。

第五十八條 前二條ノ舊税ノ總額ハ昭和三十九年度ニ於ケル市町村税額ヨリ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減シタルモノトス。

前二條ノ新税ノ總額、前條第二項ノ總人口並ニ前項ノ市町村税額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル。

第五十九條 昭和三十九年度乃至昭和三十九年度ニ限り第一種配付額及第二種配付

額ノ外ニ地方稅收入ノ増減ヲ緩和スル爲第三種配付額ヲ設ク
昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ於ケル第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ハ大都市
配付稅總額ニ左ニ掲グル率ヲ乘シタル額トス

年度	第一種配付額	第二種配付額	第三種配付額
昭和十五年度	百分ノ三十五	百分ノ三十五	百分ノ三十
昭和十六年度	百分ノ三十七・五	百分ノ三十七・五	百分ノ二十五
昭和十七年度	百分ノ四十	百分ノ四十	百分ノ二十
昭和十八年度	百分ノ四十二・五	百分ノ四十二・五	百分ノ十五
昭和十九年度	百分ノ四十五	百分ノ四十五	百分ノ十

第六十條 大都市配付稅中第三種配付額ハ新稅額ガ舊稅額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ按
分シテ之ヲ分與ス

大都市配付稅中第三種配付額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ半
額宛第一種配付額及第二種配付額ニ之ヲ加フ

第六十一條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限り第二十五條第一項中第二種配付額トアルハ第
二種配付額及第三種配付額トシ同條第二項中前二條トアルハ第二十三條、第二十四條及第六十

條第一項トス

第六十二條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限り大都市配付稅額及新稅額ノ合算額ガ舊稅額ニ
左ニ掲グル率ヲ乘シタル額ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過額ノ三分ノ二ノ額ヲ大都市配付稅ノ
額ヨリ減額シテ之ヲ分與ス

年度	百分ノ百十	百分ノ百十五	百分ノ百二十	百分ノ百二十五	百分ノ百三十
昭和十五年度	百分ノ百十	百分ノ百十五	百分ノ百二十	百分ノ百二十五	百分ノ百三十
昭和十六年度	百分ノ百十五	百分ノ百二十	百分ノ百二十五	百分ノ百三十	百分ノ百三十五
昭和十七年度	百分ノ百二十	百分ノ百二十五	百分ノ百三十	百分ノ百三十五	百分ノ百四十
昭和十八年度	百分ノ百二十五	百分ノ百三十	百分ノ百三十五	百分ノ百四十	百分ノ百四十五
昭和十九年度	百分ノ百三十	百分ノ百三十五	百分ノ百四十	百分ノ百四十五	百分ノ百五十

第六十三條 前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ大都市配付稅額及新稅額ノ合算額ガ舊稅額ニ左ニ
掲グル率ヲ乘シタル額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ再分與ス

年度	百分ノ百	百分ノ九十五	百分ノ九十	百分ノ八十五
昭和十五年度	百分ノ百	百分ノ九十五	百分ノ九十	百分ノ八十五
昭和十六年度	百分ノ九十五	百分ノ九十	百分ノ八十五	百分ノ八十
昭和十七年度	百分ノ九十	百分ノ八十五	百分ノ八十	百分ノ七十五
昭和十八年度	百分ノ八十五	百分ノ八十	百分ノ七十五	百分ノ七十

昭和十九年度

百分ノ八十

前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ第二十四條ノ規定ニ準ジ全大郡市ニ對シテ之ヲ再分與ス

第六十四條 第六十條及前二條ノ舊稅額ハ昭和十三年度ニ於ケル市稅額ヨリ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減シタルモノトス

第六十五條 第六十條及前二條ノ新稅額並ニ前項ノ市稅額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第六十六條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限り都市配付稅ニハ第一種配付額、第二種配付額及第三種配付額ノ外ニ地方稅收入ノ變遷ヲ緩和スル爲第四種配付額ヲ設ク

昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ於テハ第一種配付額、第二種配付額、第三種配付額及第四種配付額ハ都市配付稅總額ニ左ニ掲グル率ヲ乘シタル額トス

第一種配付額 第二種配付額 第三種配付額 第四種配付額

昭和十五年度 百分ノ三十二・五 百分ノ三十二・五 百分ノ五 百分ノ三十

昭和十六年度 百分ノ三十五 百分ノ三十五 百分ノ五 百分ノ二十五

昭和十七年度 百分ノ三十七・五 百分ノ三十七・五 百分ノ五 百分ノ二十

昭和十八年度 百分ノ四十 百分ノ四十 百分ノ五 百分ノ十五

昭和十九年度 百分ノ四十二・五 百分ノ四十二・五 百分ノ五 百分ノ十

第六十六條 都市配付稅中第四種配付額ハ新稅額ガ舊稅額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ分與ス

都市配付稅中第四種配付額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ半額宛第一種配付額及第二種配付額ニ之ヲ加フ

第六十七條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限り第三十二條第一項中第二種配付額トアルハ第三種配付額及第四種配付額トシ同條第二項中第二十九條及第三十條トアルハ第二十九條、第三十條及第六十六條第一項トス

第六十八條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限り都市配付稅額(第三種配付額ヲ除ク)及新稅額ノ合算額ガ舊稅額ニ左ニ掲グル率ヲ乘シタル額ヲ超過スル市ニ付テハ其ノ超過額ノ三分ノ二ノ額ヲ都市配付稅(第三種配付額ヲ除ク)ノ額ヨリ減額シテ之ヲ分與ス

昭和十五年度 百分ノ百十

昭和十六年度 百分ノ百十五

昭和十七年度 百分ノ百二十

昭和十八年度 百分ノ百二十五
 昭和十九年度 百分ノ百三十

第六十九條 前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ハ都市配付税額(第三種配付額ヲ除ク)及新税額ノ合算額ガ舊税額ニ左ニ掲グル率ヲ乘シタル額ニ不足スル市ニ對シテ其ノ不足額ニ按分シテ之ヲ再分與ス

昭和十五年度 百分ノ百
 昭和十六年度 百分ノ九十五
 昭和十七年度 百分ノ九十
 昭和十八年度 百分ノ八十五
 昭和十九年度 百分ノ八十

前條ノ規定ニ依リ減額シタル額ガ前項ノ不足額ノ合計額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ第三種配付額ニ之ヲ加フ

第七十條 第六十六條及前二條ノ舊税額ハ昭和十三年度ニ於ケル市税額ヨリ小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ヲ減シタルモノトス
 第六十六條及前二條ノ新税額並ニ前項ノ市税額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第一項ノ市税額中戸數額及之ニ代ル家屋税附加税ノ額ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 第六十五條乃至前條ノ規定ハ町村配付税ニ付之ヲ準用ス
 第七十二條 昭和十五年度及昭和十六年度ニ限り第十二條第一項中前年度初日トアルハ當該年度初日トス

第七十三條 昭和十五年度乃至昭和十八年度ニ於ケル國稅附加税額ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
 第七十四條 昭和十五年度及昭和十六年度ニ限り配付税ノ交付ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

昭和十五年度及昭和十六年度ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ配付税ハ分與額ノ決定前ニ其ノ一部ヲ交付スルコトヲ得

附 則(一)

本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 附 則(二)
 本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○地方分與税法施行規則 (昭和十五年八月三日內務、大藏省令第三號)

第一章 運付税

第一條 地方分與税法(以下法ト稱ス)第四條第一項ノ各道府縣ノ區域内ニ於テ徵收スベキ地租、家屋税及營業税ハ當該道府縣ノ區域内ニ存シ又ハ存シタル土地、家屋又ハ營業所ニ付徵收スベシ。地租、家屋税又ハ營業税トス。

第二條 稅務官署法第四條第三項ノ規定ニ依リ營業税ノ額ノ通知ヲ爲ストキハ併セテ左ニ掲グル事項ヲ通知スベシ。

第三條 運付税ノ豫算ノ範圍内ニ於テ左ニ定ムル所ニ依リ之ヲ交付ス。

交付時期 交付金額
四月乃至六月ニ收納シタル額
七月乃至九月ニ收納シタル額
十月乃至十二月ニ收納シタル額
一月乃至三月ニ收納シタル額
前條ニ規定スル交付金額ノ算定ニ關シテハ地租、家屋税及營業税ニ付或ル月ニ於テ支出シタル揚具金ハ當該月ノ收納税額ヨリ之ヲ控除スル。

二 村に對シテ交付スベキ額ハ分割ニ係ル區域ヲ基礎トシテ之ヲ分別シ其ノ分別シタルモノヲ當該區域ノ屬スル市町村ニ對シテ分與ス

三 境界變更ニ因リ市町村ノ人口ノ二分ノ一以上ヲ減シタル場合ニ於テハ境界變更ノ期日後當該市町村ニ對シテ交付スベキ額ハ變更ニ係ル區域ヲ基礎トシテ之ヲ分別シ其ノ分別シタルモノニ對シテ當該區域ノ屬スル市町村ニ對シテ分與ス

前項第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ル分別ハ當該區域ヲ區域トスル獨立ノ市町村ガ當該年度ノ配付税ノ分與額ノ算定期日ニ存シタルモノト假定シタル場合ニ於テ各市町村ニ對シテ分與スベキ額付税ノ額(都市配付税及町村配付税ノ三種配付額ヲ除ク)ニ按分スルノ方法ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ配付税ノ額ヲ算定スルニ必要ナル乘率ハ當該年度ノ配付税ノ分與額ノ算定ニ用セタルモノトシ人口、國稅附加税額及尋常小學校兒童數ハ第十七條各號ニ掲グルモノニ依ル

第一項第三號ノ人口ハ境界變更ノ期日ノ現在ニ依リ北海道廳長官又ハ府縣知事ノ調査シタル現住人口トス

第六條 配付税ハ左ニ定ムル所ニ依リ之ヲ交付ス

交付時期

交付金額

道府縣配付税 六月、九月、十二月及二月 分與額ノ四分ノ一宛

市町村配付税 四月、七月、十月及一月 分與額ノ四分ノ一宛

第七條 法第十五條第五項ノ北海道拓殖費ノ毎年度支出額中ノ一定部分又ハ沖繩縣振興事業費ノ毎年度支出額中ノ一定部分ハ夫々前前年度ニ於ケル北海道拓殖費又ハ沖繩縣振興事業費ノ支出決算見込額(地元負擔金ノ額ヲ控除ス)ノ五分ノ一トス

第八條 都市配付税及町村配付税中三種配付額ハ第一種配付額及第二種配付額ノ分與額過少ト認めラルル市町村ニシテ左ノ事由アルモノニ對シ當該事由ヲ斟酌シテ之ヲ分與ス

- 一 災害應急又ハ復舊費ニ充ツル爲借入レタル負債額ノ多額ナルコト
- 二 公用地等ノ面積大ナルコト
- 三 官業ノ規模大ナルモノアルコト
- 四 人口ノ増加著シキコト
- 五 人口ノ密度稀薄ナルコト
- 六 尋常小學校兒童數ノ増加著シキコト
- 七 道府縣稅附加税額又ハ獨立稅額ハ少額ナルコト
- 八 其ノ他特別ノ事情アルコト

第九條 法第十五條乃至第十七條、第十九條、第二十條、第二十三條乃至第二十五條、第二十九

條、第三十條、第三十二條、第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ人口ハ最近ノ國勢調査ニ依ル人口トス

前項ノ人口ニハ租務所（拘置所ヲ含ム）内ニ在リタル人員ハ之ヲ含マズ

第十條 法第十五條ノ還付税額ハ前前年度ニ於ケル還付税ノ交付額トス

第十一條 法第十五條、第二十條、第二十三條、第二十九條及第三十六條ノ國稅附加税額ハ前前年度ニ於ケル附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ニ基キ之ヲ算定ス此ノ場合ニ於テ段別税又ハ段別税附加税ハ之ヲ地租附加税ニ加算ス

前項ノ附加税ノ調定額ノ算定ニ付テハ附加税ノ賦課ヲ爲シ得ルモノニシテ其ノ賦課ヲナサザルモノハ之ヲ賦課シタルモノト看做ス

地租附加税、家屋税附加税、營業税附加税、段別税又ハ段別税附加税ニ付其ノ調定ノ年度後ニ於テ還付シタル額ハ還付シタル年度ニ於ケル地租附加税、家屋税附加税、營業税附加税、段別税又ハ段別税附加税ノ調定額ヨリ之ヲ控除ス

第十二條 法第十五條ノ道府縣配付税總額、法第二十條ノ市町村配付税總額、法第二十三條ノ大都市配付税總額、法第二十九條ノ都府配付税總額及法第三十六條ノ町村配付税總額ハ夫々當該年度分トシテ分與スヘキ道府縣配付税總額、市町村配付税總額、大都市配付税總額、都市配付

税總額及町村配付税總額トス

第十三條 法第十五條ノ災害土木費負債額ハ配付税ノ分與額ノ算定期日ノ現在ニ於ケル災害土木費負債額中明治四十四年法律第十五號ニ基ク勅令ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケタル災害土木事業費（北海道ニ付テハ國庫ノ補助ヲ受ケタル災害土木事業費）ニ充當シタルモノトス

第十四條 法第十六條、第二十四條、第三十條及第三十七條ノ尋常小學校兒童數ハ最近ノ國勢調査期日ノ現在ニ於ケル市町村立小學校ノ在籍兒童數トス

前項ノ兒童數ノ算定ニ付テハ市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ設置スル小學校ノ兒童ハ之ヲ兒童ノ住所市町村ノ兒童ト看做シ小學校令第八條又ハ第八條ノ二ノ規定ニ依リ委託ヲ爲シタル兒童ハ之ヲ委託シタル市町村又ハ町村學校組合ノ兒童ト看做ス

第十五條 配付税ノ分與ノ基礎ニ用フル人口、税額等ニ付錯誤アリタル場合ニ於テハ之ヲ知リタル年度ノ翌年度又ハ翌翌年度ニ於ケル配付税ノ分與ノ基礎ニ用フル全國ノ人口、税額等並ニ當該道府縣又ハ市町村ノ人口、税額等ニ付加算又ハ控除ヲ行ヒ分與額ヲ算定ス

第十六條 本令ノ適用ニ付テハ町村組合ニシテ町村事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル町村ニ準ズベキモノハ之ヲ町村ト看做ス

第十七條 配付税ノ分與額ノ算定期日迄ニ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於ケル
ニ關係市町村ノ配付税ノ額ヲ算定スルニ必要ナル人口、國稅附加稅額及尋常小學校兒童數ハ左
ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 市町村ノ人口

市制町村制施行規則第一條第二項ノ規定又ハ其ノ準用ニ依リ北海道廳長官又ハ府縣知事ノ告

示シタル人口

二 國稅附加稅額

廢置分合又ハ境界變更ニ係ル區域ヲ基礎トシテ算定シタル額

三 尋常小學校兒童數

市制町村制施行規則第一條第二項ノ規定ニ準ジ算定シタル兒童數

附 則

第十八條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 昭和十五年度乃至昭和十八年度ニ限り還付税ハ第三條ノ規定ニ拘ラズ豫算ノ範圍内ニ

於テ左ニ定ムル所ニ依リ之ヲ交付ス

昭和十五年度乃至昭和十七年度

交付時期 交付金額

八月 前年度三月ニ收納シタル額及當該年度四月及五月ニ收納シタルモノニシテ前

年度ノ收入ニ歸屬スベキ額ノ合算額ヨリ前年度三月ニ交付シタル金額(前年

度一月及二月ニ收納シタル額ヲ除ク)ヲ控除シタル額並ニ當該年度四月乃至

六月ニ收納シタルモノニシテ當該年度ノ收入ニ歸屬スベキ額

七月乃至九月ニ收納シタル額

十月乃至十二月ニ收納シタル額

十一月 當該年度一月及二月ニ收納シタル額並ニ當該年度三月ニ收納スベキ額及翌年

度四月及五月ニ收納スベキモノニシテ當該年度ノ收入ニ歸屬スベキ額ノ全部

又ハ一部

昭和十八年度

交付時期 交付金額

七月 前年度三月ニ收納シタル額及當該年度四月及五月ニ收納シタルモノニシテ前

年度ノ收入ニ歸屬スベキ額ノ合算額ヨリ前年度三月ニ交付シタル金額(前年

八月 四月乃至六月ニ收納シタルモノニシテ當該年度ノ收入ニ歸屬スベキ額
 十一月 七月乃至九月ニ收納シタル額
 十二月 十月乃至十二月ニ收納シタル額

前年度三月ニ於テ交付シタル金額（一月及二月ニ收納シタル額ヲ除ク）ガ前年度三月ニ收納シタル額及當該年度四月及五月ニ收納シタルモノニシテ前年度ノ收入ニ歸屬スベキ額ノ合算額ヲ超ユルトキハ後ノ交付時期ニ於テ其ノ超過額ヲ控除シ其ノ交付金額ヲ定ム

當該交付時期ニ於テ交付シ得ザリシ金額ハ後ノ交付時期ニ於テ之ヲ加算シ其ノ交付金額ヲ定ム
 第二十条 昭和十五年度及昭和十六年度ニ限り配付税ハ第六條ノ規定ニ拘ラズ左ニ定ムル所ニ依リ之ヲ交付ス

道府縣配付税
 交付時期 八月及十一月
 交付金額 分與額ヨリ法第七十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ基キ配付税ノ分與額ノ決定前ニ交付シタル金額ヲ控除シタル額ノ二分ノ一宛
 大都市配付税

交付金額
 第二十五條 九月及十一月 分與額ヨリ法第七十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ基キ配付税ノ分與額ノ決定前ニ交付シタル金額ヲ控除シタル額ノ二分ノ一宛

交付金額
 九月及十一月 第一種配付額、第二種配付額及第四種配付額ノ合計額ヨリ法第七十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ基キ配付税ノ分與額ノ決定前ニ交付シタル金額ヲ控除シタル額ノ二分ノ一宛

六 前項ノ規定ニ拘ラズ町村配付税中伊豆七島及小笠原島ノ町村ニ對スル第三種配付額ノ分與額ハ十二月ニ其ノ全額ヲ交付ス
 第二十一條 昭和十五年度及昭和十六年度ニ限り第七條中前前年度トアルハ前年度トス
 第二十二條 昭和十五年度乃至昭和十九年度ニ限り都市配付税及町村配付税中第三種配付額ハ第八條ノ規定ニ拘ラズ第一種配付額、第二種配付額及第四種配付額ノ分與額過少ト認めラルル市町村ニシテ左ノ事由アルモノニ對シ當該事由ヲ斟酌シテ之ヲ分與ス

- 一 第八條第一號乃至第七號ニ掲グル事由
 - 二 昭和十三年度ニ於ケル市町村税額ガ常態ニ比シ特ニ少額ナリシコト
 - 三 昭和十一年度當初算定ニ於ケル戸數額又ハ戸數額ニ代ル家屋税附加税ノ額ガ常態ニ比シ特ニ少額ナリシコト
 - 四 税制改正ニ因ル市町村税ノ減收特ニ多額ナルコト
 - 五 税制改正ニ因リ家屋税及家屋税附加税ノ負擔過重ト爲ルコト
 - 六 其ノ他特別ノ事情アルコト
- 第二十三條 當分ノ内伊豆七島及小笠原島ノ町村ニ對シテハ第一種配付額、第二種配付額及第四種配付額ハ之ヲ分與セズ
- 前項ノ町村ニ對シテハ町村配付税中第三種配付額ハ町村ノ課税力及財政需要ヲ斟酌シテ之ヲ分與ス
- 第二十四條 昭和十五年度ニ限リ第九條第一項ノ人口ニハ同條第二項ノ規定ニ拘ラズ部隊艦船及刑務所内ニ在リタル人員ハ之ヲ含まズ
- 第二十五條 昭和十五年度乃至昭和十八年度ニ限リ還付税額ハ第十條ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 昭和十五年度

(一) 地 租

昭和十四年度最終定期賦課期日現在ニ於テ地租附加税ヲ賦課シ得ベキ土地ノ賃貸價格(昭和十四年度ニ於テ法令ニ依リ地租ヲ減免スベキ土地ノ賃貸價格ハ其ノ減免ノ割合ニ應ジテ減シタル賃貸價格)ニ百分ノ二ヲ乘シタル額

(二) 營業稅

- (イ) 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル營業收益税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額中法人分ノ額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額及個人分ノ額ニ百分ノ三十ヲ乘シタル額ノ合算額
- (ロ) 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル礦産税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ニ百分ノ五ヲ乘シタル額

二 昭和十六年度

(一) 地 租

昭和十五年度ニ於ケル還付税ノ交付額

(二) 營業稅

昭和十五年度ニ於ケル還付税ノ交付額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額

三 昭和十七年度

(一) 地租

昭和十七年度ニ於ケル還付税ノ交付額

(二) 家屋税

昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃貸價格ニ百分ノ一・七五ヲ乘ジタル額

(三) 營業税

昭和十五年度ニ於ケル還付税ノ交付額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額

四 昭和十八年度

(一) 地租

昭和十六年度ニ於ケル還付税ノ交付額

(二) 家屋税

昭和十七年四月一日現在ニ於テ家屋税ヲ賦課スベキ家屋ノ賃貸價格ニ百分ノ一・七五ヲ乘ジタル額

(三) 營業税

昭和十六年度ニ於ケル還付税ノ交付額

第二十六條 昭和十五年度ニ限リ第十四條第一項中最近ノ國勢調査期日トアルハ昭和十年六月一日トス

第二十七條 法第五十五條第一項ノ道府縣稅額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正ニ因ル負擔ノ増加額、營業費通帶支辨金ノ支出方法ノ改正ニ因ル負擔ノ減少額及職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ夫々左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 道府縣稅額

昭和十三年度ニ於ケル道府縣稅及貸座敷引手茶屋娼妓賦金ノ調定額並ニ臨時地方財政補給金交付額

二 小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正ニ因ル負擔ノ増加額

當該道府縣内ノ市町村ニ於ケル昭和十四年度分ノ市町村立小學校教員(代用教員ヲ含ム)俸給費及恩給納金(市町村立小學校正教員俸給費ノ百分ノ一)ノ合算額ヨリ義務教育費國庫下

三 營業費通帶支辨金ノ支出方法ノ改正ニ因ル負擔ノ減少額

昭和十三年度ニ於ケル營業費ノ支出額ニ付改正規定ニ依リ計算シタル國庫下渡金ヨリ従前ノ規定ニ依リ計算シタル國庫下渡金ヲ控除シタル額

四 職業紹介法ニ依ル負擔金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額

昭和十三年度分トシテ道府縣ニ負擔ヲ命ゼラレタル額ヨリ市町村ニ負擔ヲ命ジタル額ヲ控除シタル額

尋常高等小學校ニ於ケル前項第二號ノ尋常小學校教員分ノ俸給費ハ當該小學校教員俸給費ノ總額ヲ昭和十四年六月一日現在ニ於ケル尋常小學校分教員（代用教員ヲ含ム）數及高等小學校分教員（代用教員ヲ含ム）數ニ按分シテ之ヲ算定ス

第一項第二號及前項ノ代用教員ノ範圍並ニ前項ノ教員數ノ算定ニ付テハ義務教育費國庫負擔法第三條ノ規定、義務教育費國庫負擔法施行令第二條ノ規定及義務教育費國庫負擔法施行規程ヲ準用ス

第一項第二號及第二項ノ俸給費及教員數ニハ現役小學校教員俸給費國庫負擔法ニ依リ國庫ノ負擔スル俸給費及其ノ俸給ヲ受クル教員數ヲ含マザルモノトス

第二十八條 法第五十五條第二項ノ改正後ノ道府縣稅額ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

- 一 昭和十五年度
- 二 昭和十四年度最終定期賦課期日現在ニ於テ地租附加稅又ハ特別地稅ヲ賦課シ得ベキ土地ノ地租附加稅

貸賃價格（地租法第七十條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ヲ除ク）ノ外昭和十四年度ニ於テ法令ニ依リ地租又ハ特別地稅ヲ減免スベキ土地ノ貸賃價格ハ其ノ減免ノ割合ニ應ジテ減ジタル貸賃價格）ニ百分ノ二ヲ乘ジタル額及同年度ニ於ケル免租年期地段別割ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル宅地以外ノ土地ニ對スル地租附加稅賦課率ト一・九トノ積ヲ以テ除シタル額ノ合算額

(二) 家屋稅

昭和十五年四月一日現在ノ家屋貸賃價格（昭和十五年內務省令第二十五號ニ依リ補整セラレタルモノ）ニ百分ノ三・五ヲ乘ジタル額

(三) 營業稅附加稅

- (イ) 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル營業收益稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額
- (ロ) 中法人分ノ額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額及個人分ノ額ニ百分ノ三十ヲ乘ジタル額ノ合算額
- (ハ) 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル儲蓄稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ五ヲ乘ジタル額

(四) 儲蓄稅附加稅

昭和十四年度ニ於ケル儲蓄稅附加稅及砂鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ノ合計額

二百分ノ十ヲ乗シタル額ニ於テ賦課スベキ額ニ依リ算定シタル昭和十五年度獨立税（段別税ヲ除ク）

昭和十四年度ニ於ケル雑種税ノ測定額ニ依リ算定シタル昭和十五年度獨立税（段別税ヲ除ク）
（イ） 昭和三十二年四月一日現在ノ家屋賃貸價格ニ百分ノ三・五ヲ乗シタル額

昭和十五年度ニ於ケル營業稅附加稅ノ測定額ノ基本タル本稅額申法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額ニ百分ノ百ヲ乗シタル額

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ營業收益稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ七ノ額ニ昭和十四年度當初算定額（同時議決ノ追加更正算額ヲ含ム）以下之ニ同シ（ニ）定ムル營業收益稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

(四) 遺產稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ遺產稅附加稅ノ本稅見込額ニ百分ノ二百ヲ乗シタル額

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ取引所營業稅附加稅ノ本稅見込額ニ百分ノ十ヲ乗シタル額

タル額

(一) 所得稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ所得稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ七ノ額ニ昭和十四年度當初算定額ニ定ムル所得稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

二 昭和十六年度

(一) 地租附加稅

昭和十五年度ニ於ケル地租附加稅ノ測定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乗シタル額及段別稅ノ課稅標準タル評定賃貸價格ニ百分ノ二ヲ乗シタル額（評定賃貸價格ヲ設定セザル道府縣ニ在リテハ段別稅ノ測定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加稅賦課率ヲ以テ除シタル額）ノ合算額

(二) 家屋稅

昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃貸價格ニ百分ノ三・五ヲ乗シタル額

(三) 營業稅附加稅

昭和十五年度ニ於ケル營業稅附加稅ノ測定額ノ基本タル本稅額申法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額ニ百分ノ百ヲ乗シタル額

(四) 鑛區稅附加稅ニ於ケル鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(五) 獨立稅 昭和十五年度ニ於ケル獨立稅(段別稅ヲ除ク)調定額

(六) 舊法ニ依ル國稅附加稅

(イ) 營業收益稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ營業收益稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ三ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル營業收益稅附加稅賦課率ヲ乘ジタル額

(ロ) 所得稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ所得稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ三ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル所得稅附加稅賦課率ヲ乘ジタル額

三 昭和十七年度

(一) 地租附加稅

昭和十五年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘ジタル額及段別稅ノ課稅標準タル評定賃貸價格ニ百分ノ二ヲ乘ジタル額(評定賃貸價格ヲ設定セザル道

府縣ニ在リテハ段別稅ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加稅賦課率ヲ以テ除ジタル額)ノ

合算額

(二) 家屋稅附加稅

昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃貸價格ニ百分ノ一・七五ヲ乘ジタル額

(三) 營業稅附加稅

昭和十五年度ニ於ケル營業稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ハ合算額ニ百分ノ百ヲ乘ジタル額

(四) 鑛區稅附加稅

昭和十五年度ニ於ケル鑛區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(五) 獨立稅

昭和十五年度ニ於ケル獨立稅(段別稅ヲ除ク)調定額

四 昭和十八年度

(一) 地租附加稅

昭和十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘ジタル額及段別稅ノ課稅標準タル評定賃貸價格ニ百分ノ二ヲ乘ジタル額(評定賃貸價格ヲ設定セザル道

府縣ニアリテハ同年度ニ於ケル段別税ノ調定額ヲ地租附加税賦課率ヲ以テ除シタル額ノ合算額

(二) 家屋税附加税

昭和十七年四月一日現在ニ於テ家屋税ヲ賦課スベキ家屋ノ賃貸價格ニ百分ノ一・七五ヲ乗シタル額

(三) 營業税附加税

昭和十六年度ニ於ケル營業税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ニ百分ノ百ヲ乗シタル額

(四) 鑛區税附加税

昭和十六年度ニ於ケル鑛區税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ニ百分ノ十ヲ乗シタル額

(五) 獨立税

昭和十六年度ニ於ケル獨立税 (段別税ヲ除ク) 調定額

五 昭和十九年度

(一) 地租附加税、家屋税附加税及營業税附加税

第十一條ノ規定ニ依リ算定シタル額

(二) 鑛區税附加税

昭和十七年度ニ於ケル鑛區税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ニ百分ノ十ヲ乗シタル額

(三) 獨立税 昭和十七年度ニ於ケル獨立税 (段別税ヲ除ク) 調定額

第二十九條 法第五十五條第二項ノ還付税額ハ第二十五條 (昭和十九年度ニ在リテハ第十條) ニ定ムル還付税額トス

第三十條 法第五十六條及第五十七條第一項ノ新税ノ總額、法第五十七條第二項ノ總人口並ニ法

第五十八條第一項ノ市町村税額、小學校教員俸給費ノ負擔方法ノ改正及職業紹介法ニ依ル負擔

金ノ廢止ニ因ル負擔ノ減少額ハ夫々大都市分、都市分又ハ町村分ノ合計トス

第三十一條 法第六十條、第六十二條及第六十三條並ニ第六十六條、第六十八條及第六十九條ノ

新税額ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 昭和十五年度

(一) 地租附加税

(イ) 昭和十四年度最終定期賦課期日現在ニ於テ地租附加税又ハ特別地稅附加税ヲ賦課シ得ベキ土地ノ賃貸價格 (地租法第七十條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ヲ除ク) ノ外昭和十四年度ニ於テ法令ニ依リ地租又ハ特別地稅ヲ減免スベキ土地ノ賃貸價格ハ其ノ減免ノ割合ニ應

シテ減シタル賃貸價格ノ二百分ノ四ヲ乘シタル額

(ロ) 昭和十四年度ニ於ケル免租年期地段別附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ヲ同年度ニ於ケル道府縣ノ宅地以外ノ土地ニ對スル地租附加税賦課率ト〇・九五トノ積ヲ以テ除シタル額

(ハ) 昭和十四年度ニ於ケル免租年期地段別割ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加税賦課率

(地租附加税ヲ賦課セザル市ニ在リテハ當該道府縣内ノ市町村ノ地租附加税賦課率ノ平

均)ト〇・九五トノ積ヲ以テ除シタル額

(二) 家屋税附加税ノ調定額ハ夫々大都會市ニ在リテハ同市ノ平均額ニ依リ算定セラル

昭和十五年四月一日現在ノ家屋賃貸價格(昭和十五年内務省令第二十五號ニ依リ補整セラ

ルモ)ノ二百分ノ三・五ヲ乘シタル額

(三) 營業税附加税

(イ) 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル營業收益税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額

中法人分ノ額ニ百分ノ二十ヲ乘シタル額及個人分ノ額ニ百分ノ六十ヲ乘シタル額ノ合算

額

(ロ) 昭和十二年度乃至昭和十四年度ニ於ケル礦産税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ニ百

分ノ十ヲ乘シタル額

(四) 鑛區税附加税

昭和十四年度ニ於ケル鑛區税附加税及砂鑛區税附加税ノ調定額ノ基本タル本税額ノ合計額

ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(五) 道府縣税附加税

昭和十四年度ニ於ケル雜種税附加税ノ調定額ニ依リ算定シタル昭和十五年度道府縣税附加

税(段別税附加税ヲ除ク)收入見込額(藝妓税ヲ營業税藝妓置屋業税中ニ含メ賦課スル道

府縣内ノ市町村ニ在リテハ昭和十四年度ニ於ケル藝妓置屋業税附加税ノ調定額ノ百分ノ七

十四ヲ乘シタル額トス

(六) 獨立税

(イ) 市民税

大都市ニ付テハ七圓、都市ニ付テハ五圓ニ世帶數(最近ノ國勢調査ニ依ル世帶數以下之

三同シ)ヲ乘シタル額

(ロ) 市民税及段別税以外ノ獨立税

昭和十四年度ニ於ケル雜種税及雜種税附加税又ハ特別税ノ調定額ニ依リ地方税法第六十

三條第一項及昭和十五年^{内務省告示第四號ニ定ムル}大蔵省告示第四號ニ定ムル税目ニ付算定シタル昭和十五年度獨立稅收入見込額(自轉車稅ニ付テハ二圓ニ昭和十四年度ニ於ケル自轉車稅附加稅ノ課稅員數ヲ乘ツタル額)

(七) 舊法ニ依リ國稅附加稅

(イ) 營業收益稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ營業收益稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ七ノ額ニ昭和十四年度當初豫算ニ定ムル營業收益稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

(ロ) 儲蓄稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ儲蓄稅附加稅ノ本稅見込額ニ千分ノ千二百ヲ乘シタル額

(ハ) 取引所營業稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ取引所營業稅附加稅ノ本稅見込額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(ニ) 所得稅附加稅

昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ所得稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ七ノ額ニ最近年

二 昭和十六年度

(一) 地租附加稅

(イ) 昭和十五年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘シタル額

(ロ) 昭和十五年度ニ於ケル段別稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ヲ同年度ニ於ケル道府縣ノ地租附加稅賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(ハ) 昭和十五年度ニ於ケル段別稅ノ調定額ヲ同年度ニ於ケル地租附加稅賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(二) 家屋稅附加稅

昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃賃價格ニ百分ノ三五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加稅

昭和十五年度ニ於ケル營業稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ二倍ノ額及個人分ノ額ノ合算額ニ百分ノ二百ヲ乘シタル額

(四) 儲蓄稅附加稅

地方自治法施行規則

昭十五年度ニ於ケル鎮區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘シタル額

(五) 道府縣稅附加稅
昭十五年度ニ於ケル道府縣稅附加稅(段別稅附加稅ヲ除ク)ノ調定額ノ基本タル本稅額

ニ百分ノ百ヲ乘シタル額

(六) 獨立稅
昭十五年度ニ於ケル獨立稅ノ調定額ノ基本タル本稅額

ニ百分ノ百ヲ乘シタル額

(一) 市稅
大都市ニ付テハ七圓、都市ニ付テハ五圓ニ世帶數ヲ乘シタル額

(ロ) 市民稅及段別稅以外ノ獨立稅
昭十五年度ニ於ケル市民稅及段別稅以外ノ獨立稅ノ調定額ノ基本タル本稅額

ニ百分ノ百ヲ乘シタル額

(七) 舊法ニ依ル關稅附加稅
昭十五年度以後ニ於ケル關稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額

ニ百分ノ百ヲ乘シタル額

(イ) 營業收益稅附加稅
昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ營業收益稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ三ノ額ニ昭

和十四年度當初豫算ニ定ムル營業收益稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

(ロ) 所得稅附加稅
昭和十五年度以後ニ於テ賦課スベキ所得稅附加稅ノ本稅見込額ノ十分ノ三ノ額ニ最近年

度當初豫算ニ定ムル所得稅附加稅賦課率ヲ乘シタル額

三 昭和十七年度

(一) 地租附加稅
昭十五年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘シタル

額

(ロ) 昭十五年度ニ於ケル段別稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ヲ同年度ニ於ケル道府

縣ノ地租附加稅賦課率ト〇・五トノ積ヲ以テ除シタル額

(ハ) 昭十五年度ニ於ケル段別稅ノ調定額ノ同年度ニ於ケル地租附加稅賦課率ト〇・五ト

ノ積ヲ以テ除シタル額

(二) 家屋稅附加稅
昭和十六年四月一日現在ノ家屋賃貸價格ニ百分ノ三・五ヲ乘シタル額

(三) 營業稅附加稅
昭和十五年度ニ於ケル營業稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額中法人分ノ二倍ノ額及個人

分ノ額ノ合算額ニ百分ノ二百ヲ乘シタル額

(四) 鎮區稅附加稅

地方稅 地方分與稅法施行規則

一一一

四 昭和三十五年度ニ於ケル鎮區稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(五) 道府縣稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(六) 昭和三十五年度ニ於ケル道府縣稅附加稅(段別稅附加稅ヲ除ク)ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ百ヲ乘ジタル額

(一) 市稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(二) 市稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(三) 市稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(四) 市稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(五) 市稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(六) 市稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(七) 市稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(八) 市稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(九) 市稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(十) 市稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(十一) 市稅附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ十ヲ乘ジタル額

(一) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額

(二) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額

(三) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額

(四) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額

(五) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額

(六) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額

(七) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額

(八) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額

(九) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額

(十) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額

(十一) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額

(十二) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額

(十三) 昭和三十六年度ニ於ケル地租附加稅ノ調定額ノ基本タル本稅額ニ百分ノ二百ヲ乘ジタル額